

OT06 Q001

ADL・IADL支援 > 食事・整容・更衣・排泄 | 基礎

片麻痺患者が食事中に体幹が麻痺側へ傾き、非麻痺側上肢だけで食べている。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「椅子を高くして足を床から離す」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 安定した座位と麻痺側上肢の支持は食事動作の効率と肩の保護に役立つ。
- イ. 足底支持が失われ姿勢が不安定になる。
- ウ. 下垂は肩関節への牽引や浮腫につながることもある。
- エ. リーチ負荷が増え食事動作が難しくなる。

OT06 Q002

ADL・IADL支援 > 食事・整容・更衣・排泄 | 標準

片手のみで食事する患者が、皿の上で食物をすくい集めにくい。最も適切な自助具はどれか。この論点で、選択肢「皿の縁を高くするプレートガード」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 靴の着脱を補助する。
- イ. 遠くの物品を取る用途が中心である。
- ウ. 整容・入浴などに用いる用具である。
- エ. プレートガードは片手でも食物を皿の縁へ寄せてすくいやすくする。

答え・4肢解説

正答：イ

- ア：誤り。これは別の選択肢「骨盤・体幹を安定させ、麻痺側上肢も机上で支持する」に対応する説明で、判断対象「椅子を高くして足を床から離す」の直接の根拠ではない。
- イ：正しい。これは判断対象「椅子を高くして足を床から離す」が誤答となる理由を直接説明している。
- ウ：誤り。これは別の選択肢「麻痺側上肢を下垂させる」に対応する説明で、判断対象「椅子を高くして足を床から離す」の直接の根拠ではない。
- エ：誤り。これは別の選択肢「食器をさらに遠くへ置く」に対応する説明で、判断対象「椅子を高くして足を床から離す」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。足底支持が失われ姿勢が不安定になる。判断対象は「椅子を高くして足を床から離す」。食事支援では食具操作だけでなく、座位、上肢支持、食器配置、嚥下安全性を統合して考える。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：エ

- ア：誤り。これは別の選択肢「靴べら」に対応する説明で、判断対象「皿の縁を高くするプレートガード」の直接の根拠ではない。
- イ：誤り。これは別の選択肢「リーチャー」に対応する説明で、判断対象「皿の縁を高くするプレートガード」の直接の根拠ではない。
- ウ：誤り。これは別の選択肢「長柄ブラシ」に対応する説明で、判断対象「皿の縁を高くするプレートガード」の直接の根拠ではない。
- エ：正しい。これは判断対象「皿の縁を高くするプレートガード」が正答となる理由を直接説明している。

要点

正しい。プレートガードは片手でも食物を皿の縁へ寄せてすくいやすくする。判断対象は「皿の縁を高くするプレートガード」。自助具は障害名で選ぶのではなく、どの工程で失敗しているかという作業分析から選択する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q003

ADL・IADL支援 > 食事・整容・更衣・排泄 | 基礎

片麻痺患者が前開き上衣を着る際の一般的な手順として適切なのはどれか。この論点で、選択肢「上衣を頭からかぶる方法だけを用いる」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 非麻痺側を先に通すと麻痺側袖を操作しにくくなることがある。
- イ. 麻痺側上肢の保護と位置づけが必要である。
- ウ. 衣服形状や能力に応じて方法を選ぶ。
- エ. 着衣では動かしにくい麻痺側から袖を通すと操作しやすい。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「非麻痺側上肢から必ず袖を通す」に対応する説明で、判断対象「上衣を頭からかぶる方法だけを用いる」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「麻痺側上肢を袖に通さない」に対応する説明で、判断対象「上衣を頭からかぶる方法だけを用いる」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「上衣を頭からかぶる方法だけを用いる」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「麻痺側上肢から袖を通す」に対応する説明で、判断対象「上衣を頭からかぶる方法だけを用いる」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。衣服形状や能力に応じて方法を選ぶ。判断対象は「上衣を頭からかぶる方法だけを用いる」。更衣では着る順序、衣服形状、姿勢、注意障害や失行の有無を含めて方法を決める。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q004

ADL・IADL支援 > 食事・整容・更衣・排泄 | 標準

車椅子使用者が洗面台へ近づけず、歯磨きが介助となっている。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「車椅子が入れる足元空間や鏡・物品位置を調整する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 環境調整で自立できる可能性を検討する。
- イ. 洗面台の下部空間、鏡、蛇口、物品位置など環境条件が自立度へ影響する。
- ウ. 把持だけが問題とは限らない。
- エ. 代替方法や環境調整を考える。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「毎回介助者が全て行う」に対応する説明で、判断対象「車椅子が入れる足元空間や鏡・物品位置を調整する」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「車椅子が入れる足元空間や鏡・物品位置を調整する」が正答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「歯ブラシだけを太くする」に対応する説明で、判断対象「車椅子が入れる足元空間や鏡・物品位置を調整する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「洗面を中止する」に対応する説明で、判断対象「車椅子が入れる足元空間や鏡・物品位置を調整する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。洗面台の下部空間、鏡、蛇口、物品位置など環境条件が自立度へ影響する。判断対象は「車椅子が入れる足元空間や鏡・物品位置を調整する」。ADL自立支援では本人能力と環境とのミスマッチを見つけることが重要である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q005

ADL・IADL支援 > 食事・整容・更衣・排泄 | 標準

トイレ動作は便座移乗できるが、終了後の衣服操作で転倒しそうになる。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「立位で急いで衣服を上げるよう指導する」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 全工程をみて自立度を判断する。
- イ. 安全な姿勢と環境調整が必要である。
- ウ. 転倒が起こる工程を分析する必要がある。
- エ. 排泄は移乗だけでなく衣服操作、後始末、清拭など複数工程からなる。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「移乗できるので排泄は自立と判断する」に対応する説明で、判断対象「立位で急いで衣服を上げるよう指導する」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「立位で急いで衣服を上げるよう指導する」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「衣服操作は評価しない」に対応する説明で、判断対象「立位で急いで衣服を上げるよう指導する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「立位保持と衣服操作を分けて評価し、手すりや衣服形状を調整する」に対応する説明で、判断対象「立位で急いで衣服を上げるよう指導する」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。安全な姿勢と環境調整が必要である。判断対象は「立位で急いで衣服を上げるよう指導する」。ADL評価では『できない活動名』ではなく、どの工程で援助が必要かまで分解する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q006

ADL・IADL支援 > 食事・整容・更衣・排泄 | 標準

遂行機能障害があり、洗面時に歯磨きと洗顔の順序が混乱する。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「工程を写真や短い手順表で示す」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 必要最小限の手掛かりを使って自立を促す。
- イ. 記憶・注意負荷が高い。
- ウ. 手順の外在化により遂行機能を補助できる。
- エ. 環境構造を分かりにくくする。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「失敗しても手掛かりを出さない」に対応する説明で、判断対象「工程を写真や短い手順表で示す」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「口頭で長い説明を一度だけ行う」に対応する説明で、判断対象「工程を写真や短い手順表で示す」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「工程を写真や短い手順表で示す」が正答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「物品をランダムに配置する」に対応する説明で、判断対象「工程を写真や短い手順表で示す」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。手順の外在化により遂行機能を補助できる。判断対象は「工程を写真や短い手順表で示す」。認知障害へのADL支援では道具配置、視覚手掛かり、工程数を調整する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q007

ADL・IADL支援 > 食事・整容・更衣・排泄 | 応用

高齢患者は昼間トイレ自立だが、夜間は眠気とふらつきで転倒歴がある。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「一律におむつ使用へ変更する」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 転倒歴は重要なリスク情報である。
- イ. 最も制限の少ない安全な方法を検討する。
- ウ. 夜間は覚醒・照明・距離など条件が異なるため環境を含めて再評価する。
- エ. 状況依存性を考慮する必要がある。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「転倒歴を無視する」に対応する説明で、判断対象「一律におむつ使用へ変更する」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「一律におむつ使用へ変更する」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「夜間照明、動線、履物、手すり、ポータブルトイレの適否を評価する」に対応する説明で、判断対象「一律におむつ使用へ変更する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「昼間自立なので夜間も同じ条件とする」に対応する説明で、判断対象「一律におむつ使用へ変更する」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。最も制限の少ない安全な方法を検討する。判断対象は「一律におむつ使用へ変更する」。排泄支援は時間帯や環境によって変わるため、実際の生活条件で評価する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q008

ADL・IADL支援 > 食事・整容・更衣・排泄 | 応用

片手のみで歯磨き剤を歯ブラシへ出すことが難しい。最も適切な工夫はどれか。この論点で、選択肢「歯磨き剤を固定できる容器や滑り止めを用い、片手で操作できるようにする」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 片手動作として再構成する必要がある。
- イ. 機能訓練だけでなく即時の代償手段も重要である。
- ウ. 固定・滑り止めは失われた補助手の役割を環境で代償する。
- エ. 重要なセルフケアである。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「毎回両手操作を要求する」に対応する説明で、判断対象「歯磨き剤を固定できる容器や滑り止めを用い、片手で操作できるようにする」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「把持力だけを最大訓練する」に対応する説明で、判断対象「歯磨き剤を固定できる容器や滑り止めを用い、片手で操作できるようにする」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「歯磨き剤を固定できる容器や滑り止めを用い、片手で操作できるようにする」が正答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「歯磨きを中止する」に対応する説明で、判断対象「歯磨き剤を固定できる容器や滑り止めを用い、片手で操作できるようにする」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。固定・滑り止めは失われた補助手の役割を環境で代償する。判断対象は「歯磨き剤を固定できる容器や滑り止めを用い、片手で操作できるようにする」。片手動作では『もう一方の手が担っていた固定・保持機能』を道具や環境で置き換える。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q009

ADL・IADL支援 > 入浴・移乗・移動 | 標準

片麻痺患者が浴槽またぎで片脚立位となる際に不安定である。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「滑りやすいマットを敷く」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 動作難易度が上がる。
- イ. 転倒リスクが高まる。
- ウ. 環境・福祉用具による代償を検討する。
- エ. 座位での浴槽出入りは片脚支持を減らし安全性を高められる。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「浴槽縁を高くする」に対応する説明で、判断対象「滑りやすいマットを敷く」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「滑りやすいマットを敷く」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「立位またぎを反復して慣れさせるだけにする」に対応する説明で、判断対象「滑りやすいマットを敷く」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「バスボード等で座位移乗へ変更できるか検討する」に対応する説明で、判断対象「滑りやすいマットを敷く」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。転倒リスクが高まる。判断対象は「滑りやすいマットを敷く」。入浴では浴槽高さ、手すり、床、浴室幅、介助者位置まで含めて評価する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q010

ADL・IADL支援 > 入浴・移乗・移動 | 基礎

ベッドから車椅子へ移乗する際の基本的な安全確認として適切なのはどれか。この論点で、選択肢「ブレーキをかけ、フットサポートを移乗の妨げにならない位置へする」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 移乗距離が増える。
- イ. 車椅子が動き転倒する危険がある。
- ウ. フットサポートは立位支持用ではない。
- エ. 車椅子の固定と足部周囲の障害物除去は移乗安全に重要である。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「車椅子を遠く離す」に対応する説明で、判断対象「ブレーキをかけ、フットサポートを移乗の妨げにならない位置へする」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「ブレーキを解除したまま移乗する」に対応する説明で、判断対象「ブレーキをかけ、フットサポートを移乗の妨げにならない位置へする」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「フットサポートに立つ」に対応する説明で、判断対象「ブレーキをかけ、フットサポートを移乗の妨げにならない位置へする」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「ブレーキをかけ、フットサポートを移乗の妨げにならない位置へする」が正答となる理由を直接説明している。

要点

正しい。車椅子の固定と足部周囲の障害物除去は移乗安全に重要である。判断対象は「ブレーキをかけ、フットサポートを移乗の妨げにならない位置へする」。移乗では車椅子位置、ブレーキ、フットサポート、床面、手すり位置を毎回確認する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q011

ADL・IADL支援 > 入浴・移乗・移動 | 標準

下肢で十分に立ち上がれないが、座位バランスと上肢支持が保たれている患者の横移乗に適する可能性が高い用具はどれか。この論点で、選択肢「ストッキングエイド」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 食事用自助具である。
- イ. 靴の着脱補助具である。
- ウ. 立位を介さず座面間を滑るように移乗する際に用いられる。
- エ. 靴下着脱補助具である。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「プレートガード」に対応する説明で、判断対象「ストッキングエイド」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「長柄靴べら」に対応する説明で、判断対象「ストッキングエイド」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「スライディングボード」に対応する説明で、判断対象「ストッキングエイド」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「ストッキングエイド」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。靴下着脱補助具である。判断対象は「ストッキングエイド」。移乗機器は上肢機能、座位バランス、皮膚、移乗高低差、介助者能力を踏まえて選ぶ。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q012

ADL・IADL支援 > 入浴・移乗・移動 | 標準

歩行器では安全に歩けるが、自宅廊下が狭く方向転換が難しい。最も適切なものはどれか。この論点で、選択肢「実測した廊下幅や旋回空間を踏まえ、歩行補助具や家具配置を再検討する」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 自宅移動では環境評価が不可欠である。
- イ. 環境条件が異なる。
- ウ. 移動補助具は実際の通路幅や旋回スペースへ適合する必要がある。
- エ. 通路を狭くする。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「住宅環境は評価しない」に対応する説明で、判断対象「実測した廊下幅や旋回空間を踏まえ、歩行補助具や家具配置を再検討する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「病院で歩けたので自宅でも同じと判断する」に対応する説明で、判断対象「実測した廊下幅や旋回空間を踏まえ、歩行補助具や家具配置を再検討する」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「実測した廊下幅や旋回空間を踏まえ、歩行補助具や家具配置を再検討する」が正答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「家具を増やす」に対応する説明で、判断対象「実測した廊下幅や旋回空間を踏まえ、歩行補助具や家具配置を再検討する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。移動補助具は実際の通路幅や旋回スペースへ適合する必要がある。判断対象は「実測した廊下幅や旋回空間を踏まえ、歩行補助具や家具配置を再検討する」。移動能力は本人の身体能力と移動機器・住宅環境の組合せで決まる。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q013

ADL・IADL支援 > 入浴・移乗・移動 | 標準

ベッドからの起き上がりで全介助となっているが、横向きまでは自力で可能である。最も適切なものはどれか。この論点で、選択肢「自力動作を禁止する」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

ア. 過介助となる可能性がある。

イ. 活動機会を失う。

ウ. 高さ調整だけでは動作戦略を学習できない。

エ. 残存能力を使う工程を増やすことで自立度を高められる。

OT06 Q014

ADL・IADL支援 > 入浴・移乗・移動 | 応用

浴槽からの立ち上がりに介助者が腰痛を訴えている。本人は上肢支持が可能である。最も適切なものはどれか。この論点で、選択肢「浴槽台・手すり・リフト等を含め、本人の残存能力と介助者負担の両方を評価する」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

ア. 介護継続性へ影響する重要な要素である。

イ. 福祉用具導入では本人の自立と介助者の安全を同時に評価する。

ウ. 介助者の腰痛を悪化させる可能性がある。

エ. 残存能力を活用する。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「最初から最後まで介助を続ける」に対応する説明で、判断対象「自力動作を禁止する」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「自力動作を禁止する」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「ベッドを低くするだけで終了する」に対応する説明で、判断対象「自力動作を禁止する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「自力で可能な寝返りを利用し、肘支持から起き上がる手順を練習する」に対応する説明で、判断対象「自力動作を禁止する」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。活動機会を失う。判断対象は「自力動作を禁止する」。自立支援では介助量を減らすだけでなく、本人が使える運動戦略を明確にする。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「介助者の身体負担は評価しない」に対応する説明で、判断対象「浴槽台・手すり・リフト等を含め、本人の残存能力と介助者負担の両方を評価する」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「浴槽台・手すり・リフト等を含め、本人の残存能力と介助者負担の両方を評価する」が正答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「介助者がさらに力で持ち上げる」に対応する説明で、判断対象「浴槽台・手すり・リフト等を含め、本人の残存能力と介助者負担の両方を評価する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「本人は何もしないよう指示する」に対応する説明で、判断対象「浴槽台・手すり・リフト等を含め、本人の残存能力と介助者負担の両方を評価する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。福祉用具導入では本人の自立と介助者の安全を同時に評価する。判断対象は「浴槽台・手すり・リフト等を含め、本人の残存能力と介助者負担の両方を評価する」。在宅ADL支援では本人だけでなく介助者の動作、負担、住環境も評価対象となる。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q015

ADL・IADL支援 > ADLへの代償手段・自立支援 | 基礎

ADL支援における代償手段について正しいのはどれか。この論点で、選択肢「若年者には用いない」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 年齢ではなく作業課題と能力で決める。
- イ. 自助具や環境調整は機能訓練と併用できる。
- ウ. 早期から必要に応じて導入する。
- エ. 適切な代償は生活参加を保ちながら訓練継続を可能にする。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「若年者には用いない」が誤答となる理由を直接説明している。
イ：誤り。これは別の選択肢「機能回復訓練と並行して用い、現在の生活自立を高められる」に対応する説明で、判断対象「若年者には用いない」の直接の根拠ではない。
ウ：誤り。これは別の選択肢「機能回復を完全に諦めた場合だけ用いる」に対応する説明で、判断対象「若年者には用いない」の直接の根拠ではない。
エ：誤り。これは別の選択肢「使用すると必ず機能回復を妨げる」に対応する説明で、判断対象「若年者には用いない」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。年齢ではなく作業課題と能力で決める。判断対象は「若年者には用いない」。作業療法では『治す』と『工夫してできるようにする』を対立させず併用する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q016

ADL・IADL支援 > ADLへの代償手段・自立支援 | 標準

更衣に時間がかかるため家族が毎朝全て着せているが、本人は上衣の半分まで自力でできる。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「時間に余裕を持たせ、自力でできる工程は本人に任せる」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. できる工程を本人が担うことで能力維持と自立を支える。
- イ. 生活上必要な活動である。
- ウ. 能力変化を定期的に確認する。
- エ. 過介助となり得る。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「時間に余裕を持たせ、自力でできる工程は本人に任せる」が正答となる理由を直接説明している。
イ：誤り。これは別の選択肢「着替えを中止する」に対応する説明で、判断対象「時間に余裕を持たせ、自力でできる工程は本人に任せる」の直接の根拠ではない。
ウ：誤り。これは別の選択肢「本人の能力を再評価しない」に対応する説明で、判断対象「時間に余裕を持たせ、自力でできる工程は本人に任せる」の直接の根拠ではない。
エ：誤り。これは別の選択肢「効率優先で永続的に全介助する」に対応する説明で、判断対象「時間に余裕を持たせ、自力でできる工程は本人に任せる」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。できる工程を本人が担うことで能力維持と自立を支える。判断対象は「時間に余裕を持たせ、自力でできる工程は本人に任せる」。自立支援では介助の速さより、本人が持つ能力を日常で使い続けられることを重視する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q017

ADL・IADL支援 > ADLへの代償手段・自立支援 | 標準

認知症患者が洗面用品を毎日探して混乱する。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「全てを見えない棚へ収納する」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 視覚の手掛かりを失う場合がある。
- イ. 環境の一貫性は記憶負荷を減らす。
- ウ. 選択肢が増え混乱しやすい。
- エ. 学習した手掛かりが使えなくなる。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「全てを見えない棚へ収納する」が誤答となる理由を直接説明している。
イ：誤り。これは別の選択肢「使用頻度の高い物を決まった場所へ分かりやすく配置する」に対応する説明で、判断対象「全てを見えない棚へ収納する」の直接の根拠ではない。
ウ：誤り。これは別の選択肢「物品数を増やす」に対応する説明で、判断対象「全てを見えない棚へ収納する」の直接の根拠ではない。
エ：誤り。これは別の選択肢「毎日収納場所を変える」に対応する説明で、判断対象「全てを見えない棚へ収納する」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。視覚の手掛かりを失う場合がある。判断対象は「全てを見えない棚へ収納する」。認知障害への代償では環境そのものを外部記憶として活用する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q018

ADL・IADL支援 > ADLへの代償手段・自立支援 | 標準

退院時に導入した自助具が3か月後ほとんど使われていない。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「使用場面・使いにくさ・能力変化を確認し、必要なら用具や方法を再調整する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 用具は導入後の実使用を確認して適合を見直す必要がある。
- イ. 用具側の問題や生活変化を検討する。
- ウ. 未使用には理由がある。
- エ. まず原因評価を行う。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「使用場面・使いにくさ・能力変化を確認し、必要なら用具や方法を再調整する」が正答となる理由を直接説明している。
イ：誤り。これは別の選択肢「本人が悪いと判断する」に対応する説明で、判断対象「使用場面・使いにくさ・能力変化を確認し、必要なら用具や方法を再調整する」の直接の根拠ではない。
ウ：誤り。これは別の選択肢「使っていないくてもそのままにする」に対応する説明で、判断対象「使用場面・使いにくさ・能力変化を確認し、必要なら用具や方法を再調整する」の直接の根拠ではない。
エ：誤り。これは別の選択肢「別の用具を評価せず追加する」に対応する説明で、判断対象「使用場面・使いにくさ・能力変化を確認し、必要なら用具や方法を再調整する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。用具は導入後の実使用を確認して適合を見直す必要がある。判断対象は「使用場面・使いにくさ・能力変化を確認し、必要なら用具や方法を再調整する」。福祉用具の適合は一度で終了せず、身体機能・環境・生活目標の変化に応じて再評価する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q019

ADL・IADL支援 > ADLへの代償手段・自立支援 | 応用

一人暮らし患者が火を使う調理を希望するが、注意障害で消し忘れがある。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「危険があるため料理を永久禁止する」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 本人の希望を尊重しつつ環境・機器でリスク低減を図る。
- イ. 安全評価が不十分である。
- ウ. より制限の少ない代替手段を検討する。
- エ. 共同意思決定には説明が必要である。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「IHや自動消火機能、手順確認など代償策を試し、本人と安全な方法を検討する」に対応する説明で、判断対象「危険があるため料理を永久禁止する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「希望だけを優先して通常のカス調理を許可する」に対応する説明で、判断対象「危険があるため料理を永久禁止する」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「危険があるため料理を永久禁止する」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「注意障害を本人に説明しない」に対応する説明で、判断対象「危険があるため料理を永久禁止する」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。より制限の少ない代替手段を検討する。判断対象は「危険があるため料理を永久禁止する」。自立支援はゼロリスクを求めるのではなく、許容可能なリスクへ調整する過程である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q020

ADL・IADL支援 > ADLへの代償手段・自立支援 | 応用

リーチャーを導入した患者の効果判定として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「床の物を安全に拾えるようになり、介助回数が減ったか確認する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 用具導入のアウトカムは実際の作業遂行と介助量で評価する。
- イ. 目的は生活動作の改善である。
- ウ. 導入だけでは効果を示さない。
- エ. 実使用状況が重要である。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「床の物を安全に拾えるようになり、介助回数が減ったか確認する」が正答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「筋力変化だけを見る」に対応する説明で、判断対象「床の物を安全に拾えるようになり、介助回数が減ったか確認する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「用具を渡した事実だけで成功とする」に対応する説明で、判断対象「床の物を安全に拾えるようになり、介助回数が減ったか確認する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「使用頻度を確認しない」に対応する説明で、判断対象「床の物を安全に拾えるようになり、介助回数が減ったか確認する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。用具導入のアウトカムは実際の作業遂行と介助量で評価する。判断対象は「床の物を安全に拾えるようになり、介助回数が減ったか確認する」。代償手段の評価は『使えるか』ではなく『生活がどう変わったか』で行う。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q021

ADL・IADL支援 > 家事・調理・金銭・交通 | 標準

調理中に失敗が多い患者の評価として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「完成品だけを見て評価する」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 身体機能だけでは不十分である。
- イ. 過程を観察しないと原因が分からない。
- ウ. 調理は複数工程からなるため、失敗箇所を分解する。
- エ. 認知・環境・道具などを評価する。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「握力だけを測定する」に対応する説明で、判断対象「完成品だけを見て評価する」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「完成品だけを見て評価する」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「献立決定、材料準備、加熱、配膳、後片付けのどの工程で問題が生じるか確認する」に対応する説明で、判断対象「完成品だけを見て評価する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「失敗理由を本人の性格とする」に対応する説明で、判断対象「完成品だけを見て評価する」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。過程を観察しないと原因が分からない。判断対象は「完成品だけを見て評価する」。IADLでは計画、準備、実行、確認、片付けまで一連の作業として評価する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q022

ADL・IADL支援 > 家事・調理・金銭・交通 | 標準

片麻痺患者が洗濯物を持って階段を移動するのが危険である。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「洗濯動線を見直し、洗濯かごの小型化や同一階での作業を検討する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 方法を調整して役割維持を図る。
- イ. 安全性を低下させる。
- ウ. 物品量と動線を変えると転倒リスクと負担を減らせる。
- エ. バランスを崩しやすい。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「家事を永久禁止する」に対応する説明で、判断対象「洗濯動線を見直し、洗濯かごの小型化や同一階での作業を検討する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「階段手すりを使わず運ぶ」に対応する説明で、判断対象「洗濯動線を見直し、洗濯かごの小型化や同一階での作業を検討する」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「洗濯動線を見直し、洗濯かごの小型化や同一階での作業を検討する」が正答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「重いかごを片手で運ぶ」に対応する説明で、判断対象「洗濯動線を見直し、洗濯かごの小型化や同一階での作業を検討する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。物品量と動線を変えると転倒リスクと負担を減らせる。判断対象は「洗濯動線を見直し、洗濯かごの小型化や同一階での作業を検討する」。家事支援では作業方法だけでなく、収納場所や家の中の動線を見直す。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q023

ADL・IADL支援 > 家事・調理・金銭・交通 | 標準

軽度記憶障害があり公共料金の支払いを忘れる。最も適切な支援はどれか。この論点で、選択肢「記憶訓練だけで対応する」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 自動化や外部手掛かりは金銭管理の失敗を減らせる。
- イ. 実生活上の代償手段も必要である。
- ウ. 認知障害への適切な支援ではない。
- エ. 必要以上の制限となる場合がある。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「自動引き落としや支払日アラームを検討する」に対応する説明で、判断対象「記憶訓練だけで対応する」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「記憶訓練だけで対応する」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「支払い失敗を叱る」に対応する説明で、判断対象「記憶訓練だけで対応する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「現金を全て持たせない」に対応する説明で、判断対象「記憶訓練だけで対応する」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。実生活上の代償手段も必要である。判断対象は「記憶訓練だけで対応する」。金銭管理では金額理解、記憶、判断、詐欺リスク、本人の価値観を総合評価する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q024

ADL・IADL支援 > 家事・調理・金銭・交通 | 標準

脳損傷後、病棟内移動は自立したが一人でバス利用できるか不明である。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「時刻表確認、乗降、料金支払い、目的地認識など実際の交通利用手順を評価する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 公共交通は身体・認知・社会的技能を必要とするIADLである。
- イ. 歩行能力だけでは判断できない。
- ウ. 遂行機能や金銭管理も必要である。
- エ. 必要に応じ段階的に介助を減らして評価する。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「時刻表確認、乗降、料金支払い、目的地認識など実際の交通利用手順を評価する」が正答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「歩行自立なのでバスも自立と判断する」に対応する説明で、判断対象「時刻表確認、乗降、料金支払い、目的地認識など実際の交通利用手順を評価する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「筋力だけを評価する」に対応する説明で、判断対象「時刻表確認、乗降、料金支払い、目的地認識など実際の交通利用手順を評価する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「目的地まで付き添い続け能力を評価しない」に対応する説明で、判断対象「時刻表確認、乗降、料金支払い、目的地認識など実際の交通利用手順を評価する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。公共交通は身体・認知・社会的技能を必要とするIADLである。判断対象は「時刻表確認、乗降、料金支払い、目的地認識など実際の交通利用手順を評価する」。交通利用は地域参加へ直結するため、実環境での評価が重要である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q025

ADL・IADL支援 > 家事・調理・金銭・交通 | 応用

軽度認知障害がありガスの消し忘れがあるが、本人は調理継続を希望している。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「家族に隠れて調理するよう勧める」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 機器と手順の両面からリスクを下げられる。
- イ. 本人の役割と希望を尊重する。
- ウ. 既知のリスクを放置している。
- エ. 支援者と共有して安全な方法を検討する。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「自動消火・タイマー機能のある調理機器や手順チェックを検討する」に対応する説明で、判断対象「家族に隠れて調理するよう勧める」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「調理希望を無視する」に対応する説明で、判断対象「家族に隠れて調理するよう勧める」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「通常のカンコンロをそのまま使わせる」に対応する説明で、判断対象「家族に隠れて調理するよう勧める」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「家族に隠れて調理するよう勧める」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。支援者と共有して安全な方法を検討する。判断対象は「家族に隠れて調理するよう勧める」。IADL支援では自立か禁止かの二択ではなく、テクノロジーや環境調整を利用する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q026

ADL・IADL支援 > 家事・調理・金銭・交通 | 応用

脳卒中後に自動車運転再開を希望している。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「視野・認知・運動機能、病状、法的手続、必要に応じ実車・専門評価を含めて多職種で判断する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 筋力だけでは不十分である。
- イ. 運転は複雑な認知・視覚・運動作業であり多面的評価が必要である。
- ウ. 地域生活・参加に関わる重要なIADLである。
- エ. 安全性と法的条件の確認が必要である。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「MMTが正常なら運転可能とする」に対応する説明で、判断対象「視野・認知・運動機能、病状、法的手続、必要に応じ実車・専門評価を含めて多職種で判断する」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「視野・認知・運動機能、病状、法的手続、必要に応じ実車・専門評価を含めて多職種で判断する」が正答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「運転能力は作業療法の評価対象にならないとする」に対応する説明で、判断対象「視野・認知・運動機能、病状、法的手続、必要に応じ実車・専門評価を含めて多職種で判断する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「本人の希望だけで再開する」に対応する説明で、判断対象「視野・認知・運動機能、病状、法的手続、必要に応じ実車・専門評価を含めて多職種で判断する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。運転は複雑な認知・視覚・運動作業であり多面的評価が必要である。判断対象は「視野・認知・運動機能、病状、法的手続、必要に応じ実車・専門評価を含めて多職種で判断する」。運転支援では運転可否の判断だけでなく、公共交通など代替移動手段も検討する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q027

ADL・IADL支援 > 片手動作・省エネルギー等 | 基礎

片手でパンを切る際に、まな板上でパンが動いてしまう。最も適切な工夫はどれか。この論点で、選択肢「作業台を揺れる状態にする」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 安全性が低下する。
- イ. 適切な工夫で役割継続を支える。
- ウ. 片手では同時操作が困難である。
- エ. 固定具は失われた補助手の役割を代償する。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「作業台を揺れる状態にする」が誤答となる理由を直接説明している。
イ：誤り。これは別の選択肢「調理を中止する」に対応する説明で、判断対象「作業台を揺れる状態にする」の直接の根拠ではない。
ウ：誤り。これは別の選択肢「片手で強く押さえながら同じ手で切る」に対応する説明で、判断対象「作業台を揺れる状態にする」の直接の根拠ではない。
エ：誤り。これは別の選択肢「滑り止めや釘付きまな板などで食材を固定する」に対応する説明で、判断対象「作業台を揺れる状態にする」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。安全性が低下する。判断対象は「作業台を揺れる状態にする」。片手動作では固定、保持、開閉など補助手の機能を道具へ置き換える。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q028

ADL・IADL支援 > 片手動作・省エネルギー等 | 基礎

体幹前屈が難しく片手操作も必要な患者の靴下着用を補助する用具はどれか。この論点で、選択肢「ソックスエイド」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 食事用である。
- イ. 把持困難時に道具を手へ固定する用具である。
- ウ. 入浴用具である。
- エ. ソックスエイドは足部へ手が届きにくい場合の靴下着用を補助する。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「プレートガード」に対応する説明で、判断対象「ソックスエイド」の直接の根拠ではない。
イ：誤り。これは別の選択肢「ユニバーサルカフ」に対応する説明で、判断対象「ソックスエイド」の直接の根拠ではない。
ウ：誤り。これは別の選択肢「浴槽台」に対応する説明で、判断対象「ソックスエイド」の直接の根拠ではない。
エ：正しい。これは判断対象「ソックスエイド」が正答となる理由を直接説明している。

要点

正しい。ソックスエイドは足部へ手が届きにくい場合の靴下着用を補助する。判断対象は「ソックスエイド」。自助具選択では可動域、把持、片手使用、学習能力を考慮する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q029

ADL・IADL支援 > 片手動作・省エネルギー等 | 標準

COPD患者の家事で省エネルギーに最も適するのはどれか。この論点で、選択肢「休憩を取らない」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 姿勢と動線を工夫し、不要なエネルギー消費を減らす。
- イ. 負荷を高める。
- ウ. 息切れを増やしやす。
- エ. 計画的休息が重要である。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「座ってできる工程は座位で行い、重い物を作業場所の近くへ置く」に対応する説明で、判断対象「休憩を取らない」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「全作業を立位で急いで行う」に対応する説明で、判断対象「休憩を取らない」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「息を止めて重い物を持つ」に対応する説明で、判断対象「休憩を取らない」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「休憩を取らない」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。計画的休息が重要である。判断対象は「休憩を取らない」。省エネルギーでは優先順位、計画、ペース配分、姿勢、環境配置を調整する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q030

ADL・IADL支援 > 片手動作・省エネルギー等 | 標準

RA患者が雑巾を強く絞ると手指痛が増える。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「モップや絞り機能のある用具を利用して強い手指把持を減らす」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 道具を利用して関節への高負荷を減らせる。
- イ. 炎症・疼痛を増悪させる可能性がある。
- ウ. 手指小関節への負担が増える。
- エ. 方法を変えて役割継続を支える。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「モップや絞り機能のある用具を利用して強い手指把持を減らす」が正答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「痛みがあっても手で強く絞る」に対応する説明で、判断対象「モップや絞り機能のある用具を利用して強い手指把持を減らす」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「小指側へ力を集中する」に対応する説明で、判断対象「モップや絞り機能のある用具を利用して強い手指把持を減らす」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「家事を全て禁止する」に対応する説明で、判断対象「モップや絞り機能のある用具を利用して強い手指把持を減らす」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。道具を利用して関節への高負荷を減らせる。判断対象は「モップや絞り機能のある用具を利用して強い手指把持を減らす」。関節保護は負荷の分散と作業方法変更によって活動を継続する考え方である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q031

ADL・IADL支援 > 片手動作・省エネルギー等 | 応用

片手で調理する患者が時間短縮のため包丁操作を急ぎ、何度か指を切りそうになっている。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「慣れるまで速度をさらに上げる」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. ヒヤリハットを介入へ反映する。
- イ. 事故リスクが高まる。
- ウ. 鋭さだけでは片手操作の問題を解決しない。
- エ. 速度より安定性と安全性を優先し環境を整える。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「失敗を無視する」に対応する説明で、判断対象「慣れるまで速度をさらに上げる」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「慣れるまで速度をさらに上げる」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「包丁だけを鋭くする」に対応する説明で、判断対象「慣れるまで速度をさらに上げる」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「作業速度を下げ、固定具や事前準備を用いて安全な手順へ変更する」に対応する説明で、判断対象「慣れるまで速度をさらに上げる」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。事故リスクが高まる。判断対象は「慣れるまで速度をさらに上げる」。代償動作はできればよいのではなく、安全・効率・持続可能性で評価する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q032

ADL・IADL支援 > 片手動作・省エネルギー等 | 応用

慢性疾患患者が夕方に必ず強い疲労を訴える。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「一日の活動・休息・症状を記録し、重要な活動を疲労の少ない時間へ再配置する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 疲労増悪につながる可能性がある。
- イ. 症状は生活調整の重要情報である。
- ウ. 過度な不活動は廃用を招く。
- エ. 活動日誌から時間帯と負荷の関係を把握しペーシングへ利用できる。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「夕方に全家事を集中する」に対応する説明で、判断対象「一日の活動・休息・症状を記録し、重要な活動を疲労の少ない時間へ再配置する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「疲労を無視する」に対応する説明で、判断対象「一日の活動・休息・症状を記録し、重要な活動を疲労の少ない時間へ再配置する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「活動量を一律にゼロにする」に対応する説明で、判断対象「一日の活動・休息・症状を記録し、重要な活動を疲労の少ない時間へ再配置する」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「一日の活動・休息・症状を記録し、重要な活動を疲労の少ない時間へ再配置する」が正答となる理由を直接説明している。

要点

正しい。活動日誌から時間帯と負荷の関係を把握しペーシングへ利用できる。判断対象は「一日の活動・休息・症状を記録し、重要な活動を疲労の少ない時間へ再配置する」。省エネルギーは活動を減らすだけでなく、本人が大切な活動を続けるための配分技術である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q033

義肢・装具・支援機器・環境 > 義手・上肢義肢 | 基礎

体動式義手の特徴として正しいのはどれか。この論点で、選択肢「筋電信号だけで操作する」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 体動式義手は肩甲帯などの運動をケーブルへ伝えて操作する。
- イ. 作業用フックなど機能的な末端装置を使用できる。
- ウ. 身体運動を動力として用いる。
- エ. これは筋電義手の特徴である。

OT06 Q034

義肢・装具・支援機器・環境 > 義手・上肢義肢 | 基礎

筋電義手の基本的な操作原理はどれか。この論点で、選択肢「断端の残存筋から得た筋電信号を利用して電動部品を制御する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 表面筋電信号を入力としてハンド等を制御する。
- イ. 一般的な筋電義手の基本制御ではない。
- ウ. 体動式義手の説明に近い。
- エ. 通常の制御法ではない。

答え・4肢解説

正答：エ

- ア：誤り。これは別の選択肢「ハーネスとケーブルを介して身体運動でターミナルデバイス进行操作する」に対応する説明で、判断対象「筋電信号だけで操作する」の直接の根拠ではない。
- イ：誤り。これは別の選択肢「外観だけを目的とし把持機能を持たない」に対応する説明で、判断対象「筋電信号だけで操作する」の直接の根拠ではない。
- ウ：誤り。これは別の選択肢「外部電源がなければ全く操作できない」に対応する説明で、判断対象「筋電信号だけで操作する」の直接の根拠ではない。
- エ：正しい。これは判断対象「筋電信号だけで操作する」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。これは筋電義手の特徴である。判断対象は「筋電信号だけで操作する」。義手は外観、操作性、重量、耐久性、職業・生活上の要求を踏まえて選択する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：ア

- ア：正しい。これは判断対象「断端の残存筋から得た筋電信号を利用して電動部品を制御する」が正答となる理由を直接説明している。
- イ：誤り。これは別の選択肢「音声だけで操作する」に対応する説明で、判断対象「断端の残存筋から得た筋電信号を利用して電動部品を制御する」の直接の根拠ではない。
- ウ：誤り。これは別の選択肢「肩甲帯に装着したケーブルだけで操作する」に対応する説明で、判断対象「断端の残存筋から得た筋電信号を利用して電動部品を制御する」の直接の根拠ではない。
- エ：誤り。これは別の選択肢「足圧だけで操作する」に対応する説明で、判断対象「断端の残存筋から得た筋電信号を利用して電動部品を制御する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。表面筋電信号を入力としてハンド等を制御する。判断対象は「断端の残存筋から得た筋電信号を利用して電動部品を制御する」。筋電義手では残存筋の分離収縮、電極位置、ソケット適合、日常使用訓練が重要となる。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q035

義肢・装具・支援機器・環境 > 義手・上肢義肢 | 標準

前腕義手を初めて使用する患者の訓練として最も適切な順序はどれか。この論点で、選択肢「基本操作を省略する」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 初期には課題難易度が高すぎる。
- イ. ソケット圧迫や皮膚トラブルを確認する必要がある。
- ウ. 安全な実用操作の基礎となる。
- エ. 基本操作を安定させてから実用作業へ段階づける。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「最初から複雑な職業作業を行う」に対応する説明で、判断対象「基本操作を省略する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「皮膚状態を確認せず長時間装着する」に対応する説明で、判断対象「基本操作を省略する」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「基本操作を省略する」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「装着・脱着と開閉操作を練習し、その後に物品操作や両手ADLへ進む」に対応する説明で、判断対象「基本操作を省略する」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。安全な実用操作の基礎となる。判断対象は「基本操作を省略する」。義手訓練は機器操作だけでなく、本人が必要とする両手作業へ使用を定着させる過程である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q036

義肢・装具・支援機器・環境 > 義手・上肢義肢 | 標準

義手装着後、毎回同じ骨突出部に強い発赤と痛みが残る。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「ソケットの圧集中を疑い、使用時間と適合を再評価する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 圧迫増加は不適切である。
- イ. 持続する局所発赤や痛みは適合不良の手掛かりとなる。
- ウ. 装着訓練では皮膚観察が必須である。
- エ. 皮膚損傷を悪化させる可能性がある。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「発赤部へさらに圧を加える」に対応する説明で、判断対象「ソケットの圧集中を疑い、使用時間と適合を再評価する」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「ソケットの圧集中を疑い、使用時間と適合を再評価する」が正答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「皮膚観察を中止する」に対応する説明で、判断対象「ソケットの圧集中を疑い、使用時間と適合を再評価する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「慣れるまで無理に使い続ける」に対応する説明で、判断対象「ソケットの圧集中を疑い、使用時間と適合を再評価する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。持続する局所発赤や痛みは適合不良の手掛かりとなる。判断対象は「ソケットの圧集中を疑い、使用時間と適合を再評価する」。義肢適合では皮膚、痛み、断端形状、操作性、装着時間を継続的に確認する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q037

義肢・装具・支援機器・環境 > 義手・上肢義肢 | 標準

工具を確実に把持する作業が多い前腕切断者が義手を選ぶ。最も適切な考え方はどれか。この論点で、選択肢「職業内容を確認しない」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 重量はむしろ負担要因となる。
- イ. 機能・外観のバランスを考える。
- ウ. 職業関連作業は重要な選定情報である。
- エ. 末端装置は実際の作業要求と本人の優先順位で選択する。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「最も重い義手を必ず選ぶ」に対応する説明で、判断対象「職業内容を確認しない」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「外観だけで選ぶ」に対応する説明で、判断対象「職業内容を確認しない」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「職業内容を確認しない」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「職務内容と必要な把持力・耐久性に応じてフック等の末端装置を検討する」に対応する説明で、判断対象「職業内容を確認しない」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。職業関連作業は重要な選定情報である。判断対象は「職業内容を確認しない」。義手処方では切斷高位と身体条件だけでなく、仕事・家事・余暇の作業要求を分析する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q038

義肢・装具・支援機器・環境 > 義手・上肢義肢 | 標準

体動式義手で開閉操作のたびに体幹を大きく側屈してしまう。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「ハーネス適合と必要な肩甲帯運動を確認し、過剰な体幹代償を減らす」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 機械的抵抗も操作性へ影響する。
- イ. 義手の適合や操作パターンが不適切だと過剰な代償が生じる。
- ウ. 長期的に疲労や疼痛の原因になり得る。
- エ. 調整後に正しい運動を学習する。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「ケーブル抵抗を確認しない」に対応する説明で、判断対象「ハーネス適合と必要な肩甲帯運動を確認し、過剰な体幹代償を減らす」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「ハーネス適合と必要な肩甲帯運動を確認し、過剰な体幹代償を減らす」が正答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「代償が大きいほど良いとする」に対応する説明で、判断対象「ハーネス適合と必要な肩甲帯運動を確認し、過剰な体幹代償を減らす」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「操作練習を中止する」に対応する説明で、判断対象「ハーネス適合と必要な肩甲帯運動を確認し、過剰な体幹代償を減らす」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。義手の適合や操作パターンが不適切だと過剰な代償が生じる。判断対象は「ハーネス適合と必要な肩甲帯運動を確認し、過剰な体幹代償を減らす」。義手使用の質は把持できるだけでなく、代償、疲労、速度、持続性も評価する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q039

義肢・装具・支援機器・環境 > 義手・上肢義肢 | 応用

片側前腕切断者が『家では義手を使わず、仕事だけで使いたい』と希望している。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「義手を使わない時間があるので処方は失敗と判断する」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 常時使用が全員の目標ではない。
- イ. 義手使用は生活場面と本人の価値観に応じて選択される。
- ウ. 本人中心の選択が重要である。
- エ. 必要な作業で有効なら目的を満たす場合がある。

OT06 Q040

義肢・装具・支援機器・環境 > 義手・上肢義肢 | 応用

筋電義手導入半年後、使用頻度が減り『充電と手入れが面倒』と訴えている。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「実使用場面、保守負担、操作性を再評価し、設定や訓練・代替手段を見直す」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 義肢は生活・能力・機器状態の変化に応じて再評価する。
- イ. 長期フォローが必要である。
- ウ. まず原因を評価する。
- エ. 未使用の理由を分析する必要がある。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「一日中使用するよう強制する」に対応する説明で、判断対象「義手を使わない時間があるので処方は失敗と判断する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「生活場面ごとの利点・負担を本人と整理し、使用目的に合う訓練計画を立てる」に対応する説明で、判断対象「義手を使わない時間があるので処方は失敗と判断する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「本人の希望を確認しない」に対応する説明で、判断対象「義手を使わない時間があるので処方は失敗と判断する」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「義手を使わない時間があるので処方は失敗と判断する」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。必要な作業で有効なら目的を満たす場合がある。判断対象は「義手を使わない時間があるので処方

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「実使用場面、保守負担、操作性を再評価し、設定や訓練・代替手段を見直す」が正答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「導入済みなので支援終了とする」に対応する説明で、判断対象「実使用場面、保守負担、操作性を再評価し、設定や訓練・代替手段を見直す」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「別の高価な義手を評価せず追加する」に対応する説明で、判断対象「実使用場面、保守負担、操作性を再評価し、設定や訓練・代替手段を見直す」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「使用しない本人を非難する」に対応する説明で、判断対象「実使用場面、保守負担、操作性を再評価し、設定や訓練・代替手段を見直す」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。義肢は生活・能力・機器状態の変化に応じて再評価する。判断対象は「実使用場面、保守負担、操作性を再評価し、設定や訓練・代替手段を見直す」。支援機器は導入時の適合だけでなく、維持管理と継続使用可能性まで含めて支援する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q041

義肢・装具・支援機器・環境 > 上肢・下肢装具 | 基礎

静的装具の目的として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「移動速度を測る」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 静的装具は保護、安静、アライメント保持などに用いられる。
- イ. 自動運動装置ではない。
- ウ. 電気生理検査ではない。
- エ. 移動評価ではない。

OT06 Q042

義肢・装具・支援機器・環境 > 上肢・下肢装具 | 基礎

動的装具の特徴として正しいのはどれか。この論点で、選択肢「ばねやゴム等を利用し、一定方向の運動を補助・矯正できる」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 静的固定とは異なる。
- イ. 弾性力を用いて運動を補助または持続的に矯正する。
- ウ. 皮膚と循環を確認する必要がある。
- エ. 組織反応と目的に応じて調整する。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「関節を一定の肢位に保持し、保護や拘縮予防を図る」に対応する説明で、判断対象「移動速度を測る」の直接の根拠ではない。
イ：誤り。これは別の選択肢「関節を連続的に自動運動させる」に対応する説明で、判断対象「移動速度を測る」の直接の根拠ではない。
ウ：誤り。これは別の選択肢「筋電信号を測定する」に対応する説明で、判断対象「移動速度を測る」の直接の根拠ではない。
エ：正しい。これは判断対象「移動速度を測る」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。移動評価ではない。判断対象は「移動速度を測る」。装具は目的に応じて固定、運動補助、矯正、保護などの機能を持たせる。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「関節を完全固定することだけが目的である」に対応する説明で、判断対象「ばねやゴム等を利用し、一定方向の運動を補助・矯正できる」の直接の根拠ではない。
イ：正しい。これは判断対象「ばねやゴム等を利用し、一定方向の運動を補助・矯正できる」が正答となる理由を直接説明している。
ウ：誤り。これは別の選択肢「皮膚状態を確認せず使用する」に対応する説明で、判断対象「ばねやゴム等を利用し、一定方向の運動を補助・矯正できる」の直接の根拠ではない。
エ：誤り。これは別の選択肢「全例に同じ張力を設定する」に対応する説明で、判断対象「ばねやゴム等を利用し、一定方向の運動を補助・矯正できる」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。弾性力を用いて運動を補助または持続的に矯正する。判断対象は「ばねやゴム等を利用し、一定方向の運動を補助・矯正できる」。動的装具では牽引方向、張力、装着時間、皮膚反応を管理する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q043

義肢・装具・支援機器・環境 > 上肢・下肢装具 | 標準

足関節背屈が弱く遊脚期につま先が引っかかる患者に短下肢装具 AFO を使用する主な目的はどれか。この論点で、選択肢「上肢把持を改善する」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 上肢装具ではない。
- イ. 下肢装具である。
- ウ. 頸椎装具ではない。
- エ. AFOは足関節位置を制御し歩行安全性を高める。

OT06 Q044

義肢・装具・支援機器・環境 > 上肢・下肢装具 | 標準

橈骨神経麻痺で下垂手があり、指屈筋は保たれている。最も適切な上肢装具の目的はどれか。この論点で、選択肢「手関節を機能的伸展位へ支持し把持を助ける」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 手関節伸展位を保つと長指屈筋が働きやすく把持が改善しやすい。
- イ. 把持力を低下させやすい。
- ウ. 主問題と合わない。
- エ. 実用手機能を妨げる。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「上肢把持を改善する」が誤答となる理由を直接説明している。
イ：誤り。これは別の選択肢「手指巧緻性を高める」に対応する説明で、判断対象「上肢把持を改善する」の直接の根拠ではない。
ウ：誤り。これは別の選択肢「頸部を固定する」に対応する説明で、判断対象「上肢把持を改善する」の直接の根拠ではない。
エ：誤り。これは別の選択肢「足関節・足部を支持し、遊脚期の足先クリアランスを助ける」に対応する説明で、判断対象「上肢把持を改善する」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。上肢装具ではない。判断対象は「上肢把持を改善する」。下肢装具は関節支持だけでなく、歩行周期のどの局面を改善したいかで選択する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「手関節を機能的伸展位へ支持し把持を助ける」が正答となる理由を直接説明している。
イ：誤り。これは別の選択肢「手関節を最大掌屈位へ固定する」に対応する説明で、判断対象「手関節を機能的伸展位へ支持し把持を助ける」の直接の根拠ではない。
ウ：誤り。これは別の選択肢「肩だけを固定する」に対応する説明で、判断対象「手関節を機能的伸展位へ支持し把持を助ける」の直接の根拠ではない。
エ：誤り。これは別の選択肢「全指を完全屈曲位へ固定する」に対応する説明で、判断対象「手関節を機能的伸展位へ支持し把持を助ける」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。手関節伸展位を保つと長指屈筋が働きやすく把持が改善しやすい。判断対象は「手関節を機能的伸展位へ支持し把持を助ける」。装具は失われた筋機能を補い、残存筋をより有効に使うためにも用いる。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q045

義肢・装具・支援機器・環境 > 上肢・下肢装具 | 標準

新しい短下肢装具を外した後、外果部に30分以上消えない発赤がある。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「発赤部にパッドを自己判断で大量追加して続ける」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 圧分布を悪化させる可能性があるため専門的調整が必要である。
- イ. 皮膚損傷へ進む恐れがある。
- ウ. 皮膚観察は装具管理の基本である。
- エ. 持続する発赤は過度な圧の可能性を示す。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「発赤部にパッドを自己判断で大量追加して続ける」が誤答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「慣れるまで長時間装着する」に対応する説明で、判断対象「発赤部にパッドを自己判断で大量追加して続ける」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「皮膚を確認しない」に対応する説明で、判断対象「発赤部にパッドを自己判断で大量追加して続ける」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「圧迫部位を確認し装具の適合を再調整する」に対応する説明で、判断対象「発赤部にパッドを自己判断で大量追加して続ける」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。圧分布を悪化させる可能性があるため専門的調整が必要である。判断対象は「発赤部にパッドを自己判断で大量追加して続ける」。装具適合では骨突出部、皮膚、疼痛、歩容、装着時間を継続的に評価する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q046

義肢・装具・支援機器・環境 > 上肢・下肢装具 | 応用

屋内は裸足生活で、屋外だけ長距離歩行する下垂足患者がいる。装具選択で最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「歩行能力だけでなく履物、使用場面、着脱能力、本人の希望を考慮する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 装具は実生活で使えることが重要である。
- イ. 使用場面が適合性を左右する。
- ウ. 筋力は一要素にすぎない。
- エ. 必要以上の固定は機能を制限する。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「歩行能力だけでなく履物、使用場面、着脱能力、本人の希望を考慮する」が正答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「屋内外の生活条件を無視する」に対応する説明で、判断対象「歩行能力だけでなく履物、使用場面、着脱能力、本人の希望を考慮する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「筋力値だけで種類を決める」に対応する説明で、判断対象「歩行能力だけでなく履物、使用場面、着脱能力、本人の希望を考慮する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「最も固定力の強い装具を必ず選ぶ」に対応する説明で、判断対象「歩行能力だけでなく履物、使用場面、着脱能力、本人の希望を考慮する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。装具は実生活で使えることが重要である。判断対象は「歩行能力だけでなく履物、使用場面、着脱能力、本人の希望を考慮する」。装具処方では身体機能と作業・環境の適合を考える作業療法的判断が必要である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q047

義肢・装具・支援機器・環境 > 車椅子・シーティング | 基礎

車椅子の座幅が狭すぎる場合に起こりやすい問題はどれか。この論点で、選択肢「皮膚トラブルが減る」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 過度な圧迫は姿勢・快適性を損なう。
- イ. 移乗時の障害になる場合もある。
- ウ. むしろ皮膚障害リスクが増える。
- エ. 狭すぎる座幅は圧迫や擦れを生じやすい。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「姿勢保持が必ず改善する」に対応する説明で、判断対象「皮膚トラブルが減る」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「移乗が必ず容易になる」に対応する説明で、判断対象「皮膚トラブルが減る」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「皮膚トラブルが減る」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「大腿・骨盤周囲への圧迫が増える」に対応する説明で、判断対象「皮膚トラブルが減る」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。むしろ皮膚障害リスクが増える。判断対象は「皮膚トラブルが減る」。車椅子適合では座幅、座奥行、背もたれ、フットサポート、クッションを身体寸法に合わせる。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q048

義肢・装具・支援機器・環境 > 車椅子・シーティング | 基礎

車椅子の座奥行が長すぎ、座面前縁が膝窩へ強く当たっている。最も考えられる問題はどれか。この論点で、選択肢「骨盤が前へ滑り、循環や座位姿勢へ悪影響が出る」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 足部位置も乱れやすい。
- イ. 姿勢崩れを招く可能性がある。
- ウ. 膝窩圧迫を避けようとして骨盤が前方へずれることがある。
- エ. 圧分散不良を生じ得る。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「足底支持が必ず良くなる」に対応する説明で、判断対象「骨盤が前へ滑り、循環や座位姿勢へ悪影響が出る」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「体幹が必ず安定する」に対応する説明で、判断対象「骨盤が前へ滑り、循環や座位姿勢へ悪影響が出る」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「骨盤が前へ滑り、循環や座位姿勢へ悪影響が出る」が正答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「褥瘡リスクがなくなる」に対応する説明で、判断対象「骨盤が前へ滑り、循環や座位姿勢へ悪影響が出る」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。膝窩圧迫を避けようとして骨盤が前方へずれることがある。判断対象は「骨盤が前へ滑り、循環や座位姿勢へ悪影響が出る」。座奥行は大腿を十分支持しつつ膝窩を圧迫しない長さへ調整する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q049

義肢・装具・支援機器・環境 > 車椅子・シーティング | 標準

フットサポートが高すぎて大腿が座面から浮いている。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「足を空中に保つことを目標とする」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 過度な高さは大腿支持を失わせる。
- イ. 適切な足部支持は骨盤・体幹姿勢と座圧分散に重要である。
- ウ. 安定した足部支持を目指す。
- エ. 長期使用で疼痛・姿勢崩れにつながる。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「高いほど必ず安定する」に対応する説明で、判断対象「足を空中に保つことを目標とする」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「下肢支持が不十分となり座圧分布が偏るため高さを再調整する」に対応する説明で、判断対象「足を空中に保つことを目標とする」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「足を空中に保つことを目標とする」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「そのまま使用する」に対応する説明で、判断対象「足を空中に保つことを目標とする」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。安定した足部支持を目指す。判断対象は「足を空中に保つことを目標とする」。シーティングでは骨盤、体幹、足部の支持を連鎖として調整する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q050

義肢・装具・支援機器・環境 > 車椅子・シーティング | 標準

仙骨部の発赤が繰り返される車椅子使用者への対応として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「座位姿勢と圧分布を評価し、クッションと除圧方法を再検討する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 持続圧迫が増える。
- イ. 圧分散が悪化する可能性がある。
- ウ. 姿勢崩れと局所圧を評価してクッション・座位を調整する。
- エ. 皮膚状態は重要なアウトカムである。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「同一姿勢時間を延ばす」に対応する説明で、判断対象「座位姿勢と圧分布を評価し、クッションと除圧方法を再検討する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「クッションを外して硬い座面へする」に対応する説明で、判断対象「座位姿勢と圧分布を評価し、クッションと除圧方法を再検討する」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「座位姿勢と圧分布を評価し、クッションと除圧方法を再検討する」が正答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「皮膚観察をやめる」に対応する説明で、判断対象「座位姿勢と圧分布を評価し、クッションと除圧方法を再検討する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。姿勢崩れと局所圧を評価してクッション・座位を調整する。判断対象は「座位姿勢と圧分布を評価し、クッションと除圧方法を再検討する」。クッション選択は素材だけでなく、本人の除圧能力、皮膚リスク、姿勢保持を含めて行う。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q051

義肢・装具・支援機器・環境 > 車椅子・シーティング | 応用

自走式車椅子で肩痛があり、後輪へ手が届きにくく一回の駆動量も小さい。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「肩痛を無視して駆動回数を増やす」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 重要な適合要素である。
- イ. 一般に駆動負荷が増える。
- ウ. 過用障害を悪化させる。
- エ. 車軸位置は上肢到達、駆動効率、転倒安定性へ影響する。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「後輪位置は操作性と無関係と考える」に対応する説明で、判断対象「肩痛を無視して駆動回数を増やす」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「車椅子を重くする」に対応する説明で、判断対象「肩痛を無視して駆動回数を増やす」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「肩痛を無視して駆動回数を増やす」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「座位と後輪・車軸位置を評価し、駆動しやすさと安定性のバランスを調整する」に対応する説明で、判断対象「肩痛を無視して駆動回数を増やす」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。過用障害を悪化させる。判断対象は「肩痛を無視して駆動回数を増やす」。車椅子適合では操作性向上と後方転倒リスクなど安全性を同時に検討する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q052

義肢・装具・支援機器・環境 > 車椅子・シーティング | 応用

自力で除圧できず、体幹保持も弱い車椅子使用者にティルト機能を用いる主な目的はどれか。この論点で、選択肢「座面と背もたれの角度関係を保ちながら身体全体を傾け、圧分散や姿勢保持を助ける」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 車椅子座位管理の機能である。
- イ. 膝関節運動機器ではない。
- ウ. ティルトは座位姿勢を保ちながら重力方向を変え、除圧や休息を助ける。
- エ. 上肢巧緻性訓練ではない。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「立位歩行を直接訓練する」に対応する説明で、判断対象「座面と背もたれの角度関係を保ちながら身体全体を傾け、圧分散や姿勢保持を助ける」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「膝関節だけを動かす」に対応する説明で、判断対象「座面と背もたれの角度関係を保ちながら身体全体を傾け、圧分散や姿勢保持を助ける」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「座面と背もたれの角度関係を保ちながら身体全体を傾け、圧分散や姿勢保持を助ける」が正答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「手指巧緻性を高める」に対応する説明で、判断対象「座面と背もたれの角度関係を保ちながら身体全体を傾け、圧分散や姿勢保持を助ける」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。ティルトは座位姿勢を保ちながら重力方向を変え、除圧や休息を助ける。判断対象は「座面と背もたれの角度関係を保ちながら身体全体を傾け、圧分散や姿勢保持を助ける」。ティルトとリクライニングは身体への影響が異なるため、目的とずれ・剪断を考慮して使う。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q053

義肢・装具・支援機器・環境 > 自助具・日常生活用具 | 基礎

手指の把持が弱いが手関節・肘運動は可能な患者がスプーンを操作する際に有用な自助具はどれか。この論点で、選択肢「スライディングボード」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 道具を手へ固定し把持力不足を補える。
- イ. 入浴用具である。
- ウ. 下肢装具である。
- エ. 移乗用具である。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「ユニバーサルカフ」に対応する説明で、判断対象「スライディングボード」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「バスボード」に対応する説明で、判断対象「スライディングボード」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「短下肢装具」に対応する説明で、判断対象「スライディングボード」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「スライディングボード」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。移乗用具である。判断対象は「スライディングボード」。自助具は残存運動を生かし、失われた把持・到達・固定などの機能を補う。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q054

義肢・装具・支援機器・環境 > 自助具・日常生活用具 | 基礎

股関節屈曲制限があり足先へ手が届かない患者の靴着脱に適する可能性が高いのはどれか。この論点で、選択肢「長柄靴べら」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 入浴環境の用具である。
- イ. 体幹前屈や股関節屈曲を減らして靴を履ける。
- ウ. 食事用である。
- エ. 握りやすさを補助する食具である。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「浴槽手すり」に対応する説明で、判断対象「長柄靴べら」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「長柄靴べら」が正答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「プレートガード」に対応する説明で、判断対象「長柄靴べら」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「太柄スプーン」に対応する説明で、判断対象「長柄靴べら」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。体幹前屈や股関節屈曲を減らして靴を履ける。判断対象は「長柄靴べら」。長柄自助具は関節可動域制限や術後禁忌がある場合に到達距離を補う。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q055

義肢・装具・支援機器・環境 > 自助具・日常生活用具 | 標準

障害者の日常生活用具を検討する際に最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「全国で給付内容は完全に同じと考える」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 日常生活用具給付等事業は自治体運用もあるため、制度と適合の両方を確認する。
- イ. 試用や操作評価が重要である。
- ウ. 制度対象でも本人に合うとは限らない。
- エ. 地域により実施内容が異なる場合がある。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「本人の生活上の必要性を評価し、自治体の給付要件や対象品目も確認する」に対応する説明で、判断対象「全国で給付内容は完全に同じと考える」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「本人が使えるか確認しない」に対応する説明で、判断対象「全国で給付内容は完全に同じと考える」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「制度だけで本人の適合を判断する」に対応する説明で、判断対象「全国で給付内容は完全に同じと考える」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「全国で給付内容は完全に同じと考える」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。地域により実施内容が異なる場合がある。判断対象は「全国で給付内容は完全に同じと考える」。福祉用具支援では制度上利用可能かと、本人の生活に本当に適合するかを分けて確認する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q056

義肢・装具・支援機器・環境 > 自助具・日常生活用具 | 標準

市販のスプーンでは柄が細く握れない患者への対応として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「本人の手の形と把持方法に合わせて柄を太くするなど改良する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 代償手段を早期から併用できる。
- イ. 自立可能性を検討する。
- ウ. 適合しない用具は使用されにくい。
- エ. 自助具は個人の残存機能に合わせて加工・調整できる。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「握力改善まで食具を使わせない」に対応する説明で、判断対象「本人の手の形と把持方法に合わせて柄を太くするなど改良する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「食事を介助へ固定する」に対応する説明で、判断対象「本人の手の形と把持方法に合わせて柄を太くするなど改良する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「市販品が合わなくても変更しない」に対応する説明で、判断対象「本人の手の形と把持方法に合わせて柄を太くするなど改良する」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「本人の手の形と把持方法に合わせて柄を太くするなど改良する」が正答となる理由を直接説明している。

要点

正しい。自助具は個人の残存機能に合わせて加工・調整できる。判断対象は「本人の手の形と把持方法に合わせて柄を太くするなど改良する」。国立障害者リハビリテーションセンターも、自助具はニーズが多様で作業療法士が手作りする場合があると紹介している。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q057

義肢・装具・支援機器・環境 > 自助具・日常生活用具 | 応用

太柄スプーンを導入したが、自宅では重くて使わなくなった。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「同じ用具を使うよう強制する」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 生活変化に応じて再適合する。
- イ. 用具特性が不適合な可能性がある。
- ウ. 本人の実使用を重視する。
- エ. 適合は操作性だけでなく重量、疲労、家庭環境で再評価する。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「自助具の見直しをしない」に対応する説明で、判断対象「同じ用具を使うよう強制する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「自宅で使わないので本人の意欲不足と判断する」に対応する説明で、判断対象「同じ用具を使うよう強制する」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「同じ用具を使うよう強制する」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「重量・太さ・食事姿勢を再評価し、より軽い素材や別方法を試す」に対応する説明で、判断対象「同じ用具を使うよう強制する」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。本人の実使用を重視する。判断対象は「同じ用具を使うよう強制する」。自助具の成功は試験場面ではなく日常生活で継続して使えるかで判断する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q058

義肢・装具・支援機器・環境 > 住宅改修・ICT・支援機器 | 基礎

介護保険の住宅改修の給付対象として厚生労働省が示しているものはどれか。この論点で、選択肢「手すりの取付け」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 通常の家電更新ではない。
- イ. 手すり取付けは代表的な住宅改修対象である。
- ウ. 住宅改修ではない。
- エ. 一般的な住宅改修給付対象ではない。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「一般家電の買い替え」に対応する説明で、判断対象「手すりの取付け」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「手すりの取付け」が正答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「自動車の購入」に対応する説明で、判断対象「手すりの取付け」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「大型テレビの購入」に対応する説明で、判断対象「手すりの取付け」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。手すり取付けは代表的な住宅改修対象である。判断対象は「手すりの取付け」。介護保険では手すり、段差解消、床材変更、扉交換、便器交換などが住宅改修対象として示されている。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q059

義肢・装具・支援機器・環境 > 住宅改修・ICT・支援機器 | 標準

トイレへ手すりを設置する際に最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「左右どちらの手を使うか確認しない」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 施工前の動作評価が重要である。
- イ. 標準寸法だけでは適合しないことがある。
- ウ. 手すり位置は本人の動作と身体寸法に合わせて決める。
- エ. 使用側は位置決定に重要である。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「本人が使用する前に動作評価しない」に対応する説明で、判断対象「左右どちらの手を使うか確認しない」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「一般的な高さだけで決める」に対応する説明で、判断対象「左右どちらの手を使うか確認しない」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「実際の立ち座り動作と把持位置を確認して高さ・位置を決める」に対応する説明で、判断対象「左右どちらの手を使うか確認しない」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「左右どちらの手を使うか確認しない」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。使用側は位置決定に重要である。判断対象は「左右どちらの手を使うか確認しない」。住宅改修では実際の動作を再現し、可能なら仮設や試用で位置を検討する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q060

義肢・装具・支援機器・環境 > 住宅改修・ICT・支援機器 | 標準

車椅子使用者の玄関段差を解消する際に最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「段差高だけでなく、スロープ勾配、必要長、踊り場、扉開閉空間を確認する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 勾配や旋回空間も必要である。
- イ. 実際に設置できるか確認する。
- ウ. 自走か介助かでも必要条件が変わる。
- エ. スロープは設置空間と移動方法を含めて適合させる。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「段差高だけで長さを決める」に対応する説明で、判断対象「段差高だけでなく、スロープ勾配、必要長、踊り場、扉開閉空間を確認する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「玄関前のスペースを確認しない」に対応する説明で、判断対象「段差高だけでなく、スロープ勾配、必要長、踊り場、扉開閉空間を確認する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「介助方法を考えない」に対応する説明で、判断対象「段差高だけでなく、スロープ勾配、必要長、踊り場、扉開閉空間を確認する」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「段差高だけでなく、スロープ勾配、必要長、踊り場、扉開閉空間を確認する」が正答となる理由を直接説明している。

要点

正しい。スロープは設置空間と移動方法を含めて適合させる。判断対象は「段差高だけでなく、スロープ勾配、必要長、踊り場、扉開閉空間を確認する」。住宅改修は建物だけでなく、使用する車椅子や介助者の操作を含めたシステムとして考える。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q061

義肢・装具・支援機器・環境 > 住宅改修・ICT・支援機器 | 標準

記憶障害があり服薬時間を忘れるスマートフォン利用者へのICT支援として適切なのはどれか。この論点で、選択肢「端末を家族だけが管理し本人に使わせない」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 本人が使用できるなら自立支援へ活用する。
- イ. 記憶補助機能が失われる。
- ウ. 本人の操作能力に合わせて外的記憶補助としてICTを使える。
- エ. 操作負荷が高いと定着しにくい。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「端末を家族だけが管理し本人に使わせない」が誤答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「通知を全て解除する」に対応する説明で、判断対象「端末を家族だけが管理し本人に使わせない」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「定時アラームと服薬チェック機能を設定し、本人が操作できるか練習する」に対応する説明で、判断対象「端末を家族だけが管理し本人に使わせない」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「複雑なアプリを説明なしで導入する」に対応する説明で、判断対象「端末を家族だけが管理し本人に使わせない」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。本人が使用できるなら自立支援へ活用する。判断対象は「端末を家族だけが管理し本人に使わせない」。ICT支援では機能数の多さより、本人が確実に使えるシンプルな操作設計が重要である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q062

義肢・装具・支援機器・環境 > 住宅改修・ICT・支援機器 | 応用

四肢運動が重度に制限されているが、頭部スイッチ操作が可能な患者がいる。最も適切な支援はどれか。この論点で、選択肢「スイッチで照明や呼び出し、家電等を操作できる環境制御機器を検討する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 本人が自分で選択・操作できる可能性を検討する。
- イ. 重度障害者の自立支援に重要な領域である。
- ウ. わずかな随意運動を入力として環境操作へつなげられる。
- エ. 残存機能を活用する。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「全て介助者が操作する方法だけにする」に対応する説明で、判断対象「スイッチで照明や呼び出し、家電等を操作できる環境制御機器を検討する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「支援機器は上肢機能が正常な人だけに用いる」に対応する説明で、判断対象「スイッチで照明や呼び出し、家電等を操作できる環境制御機器を検討する」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「スイッチで照明や呼び出し、家電等を操作できる環境制御機器を検討する」が正答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「残存する頭部運動を利用しない」に対応する説明で、判断対象「スイッチで照明や呼び出し、家電等を操作できる環境制御機器を検討する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。わずかな随意運動を入力として環境操作へつなげられる。判断対象は「スイッチで照明や呼び出し、家電等を操作できる環境制御機器を検討する」。支援機器では入力方法、誤操作、疲労、設置環境、保守を含めて適合評価する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q063

作業分析・治療的活動 > 革細工・陶芸等の作業・道具 | 基礎

革細工で刻印を木槌で打つ作業の治療的特徴として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「手指操作を必要としない」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 打つ位置や仕上がりの確認に視覚を用いる。
- イ. 固定する手と操作する手の役割分担があり両手協調を要求する。
- ウ. 安定した座位・上肢支持が作業精度へ影響する。
- エ. 道具把持や材料操作が必要である。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「視覚を全く必要としない」に対応する説明で、判断対象「手指操作を必要としない」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「一側上肢で道具を保持し、他側で対象を固定する両手協調を要求する」に対応する説明で、判断対象「手指操作を必要としない」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「姿勢保持と無関係である」に対応する説明で、判断対象「手指操作を必要としない」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「手指操作を必要としない」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。道具把持や材料操作が必要である。判断対象は「手指操作を必要としない」。手工芸は完成品だけでなく、把持、両手協調、視覚運動協応、持続性など作業要求を分析して用いる。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q064

作業分析・治療的活動 > 革細工・陶芸等の作業・道具 | 標準

手指巧緻性が低い患者に革細工を導入する際、難易度を下げる方法として適切なのはどれか。この論点で、選択肢「大きな部品と少ない工程の作品から始める」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 選択と管理の負荷が増える。
- イ. 精度と速度の両方を要求する。
- ウ. 巧緻性要求が高い。
- エ. 部品サイズと工程数を調整すると操作・認知負荷を下げられる。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「工具を増やして選択肢を多くする」に対応する説明で、判断対象「大きな部品と少ない工程の作品から始める」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「細かな模様の刻印を時間制限付きで行う」に対応する説明で、判断対象「大きな部品と少ない工程の作品から始める」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「小さな金具を多数使用する作品から始める」に対応する説明で、判断対象「大きな部品と少ない工程の作品から始める」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「大きな部品と少ない工程の作品から始める」が正答となる理由を直接説明している。

要点

正しい。部品サイズと工程数を調整すると操作・認知負荷を下げられる。判断対象は「大きな部品と少ない工程の作品から始める」。治療的活動は材料の大きさ、工程、道具、速度、完成基準を変えて段階づける。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q065

作業分析・治療的活動 > 革細工・陶芸等の作業・道具 | 基礎

陶芸で粘土をこねる活動の特徴として適切なのはどれか。この論点で、選択肢「完成まで視覚確認を必要としない」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 上肢・手指を積極的に使用する。
- イ. 形状確認には視覚も用いる。
- ウ. 粘土の抵抗や質感を通して触覚・固有感覚入力を得ながら両手を使用する。
- エ. 粘土は豊富な触覚情報を持つ。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「上肢を全く使わない」に対応する説明で、判断対象「完成まで視覚確認を必要としない」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「完成まで視覚確認を必要としない」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「手掌・手指への触覚・固有感覚入力と両手操作を伴う」に対応する説明で、判断対象「完成まで視覚確認を必要としない」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「感覚入力がほとんどない」に対応する説明で、判断対象「完成まで視覚確認を必要としない」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。形状確認には視覚も用いる。判断対象は「完成まで視覚確認を必要としない」。陶芸は素材抵抗や形状を調整し、筋活動・感覚・巧緻性・創造性へ働きかけられる。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q066

作業分析・治療的活動 > 革細工・陶芸等の作業・道具 | 標準

上肢筋力が弱い患者に粘土作業を行う際、身体的負荷を下げる方法として適切なのはどれか。この論点で、選択肢「扱う粘土量を減らし、柔らかく扱いやすい状態にする」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 材料量と硬さは上肢へ必要な力を調整する要素となる。
- イ. 必要筋力が増える。
- ウ. 肩への負担が増える可能性がある。
- エ. 抵抗と重量が増える。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「扱う粘土量を減らし、柔らかく扱いやすい状態にする」が正答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「硬い粘土だけを用いる」に対応する説明で、判断対象「扱う粘土量を減らし、柔らかく扱いやすい状態にする」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「作業台を高くして肩挙上を増やす」に対応する説明で、判断対象「扱う粘土量を減らし、柔らかく扱いやすい状態にする」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「粘土量を大幅に増やす」に対応する説明で、判断対象「扱う粘土量を減らし、柔らかく扱いやすい状態にする」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。材料量と硬さは上肢へ必要な力を調整する要素となる。判断対象は「扱う粘土量を減らし、柔らかく扱いやすい状態にする」。作業活動の負荷は材料抵抗、重量、作業面高さ、道具形状などで調整できる。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q067

作業分析・治療的活動 > 革細工・陶芸等の作業・道具 | 基礎

編み物の作業特性として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「全身の最大筋力を主に要する」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

ア. 主要要求は微細運動と認知的持続性である。

イ. 編み目の反復は巧緻性、両手協調、注意、手順保持を要求する。

ウ. 視覚・触覚情報を利用する。

エ. 編み方の系列保持が必要である。

OT06 Q068

作業分析・治療的活動 > 革細工・陶芸等の作業・道具 | 基礎

注意障害がある患者に木工作業を導入する際に最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「刃物や電動工具の使用可否を評価し、必要なら安全な工具・工程へ変更する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

ア. 作業に応じた保護具を確認する。

イ. 整理された環境が事故予防に重要である。

ウ. 興味だけで危険作業の適応を決めない。

エ. 工具の危険性と本人の注意・判断能力を照合して作業を選ぶ。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「全身の最大筋力を主に要する」が誤答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「一定の手順を反復しながら両手の細かな協調と持続的注意を要する」に対応する説明で、判断対象「全身の最大筋力を主に要する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「視覚と触覚を使用しない」に対応する説明で、判断対象「全身の最大筋力を主に要する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「工程記憶を全く必要としない」に対応する説明で、判断対象「全身の最大筋力を主に要する」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。主要要求は微細運動と認知的持続性である。判断対象は「全身の最大筋力を主に要する」。活動選択では、その作業がどの身体・認知・心理的要素を要求するかを明確にする。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「保護具の必要性を確認しない」に対応する説明で、判断対象「刃物や電動工具の使用可否を評価し、必要なら安全な工具・工程へ変更する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「作業場を散らかしたまま行う」に対応する説明で、判断対象「刃物や電動工具の使用可否を評価し、必要なら安全な工具・工程へ変更する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「興味があれば安全評価せず電動工具を使用する」に対応する説明で、判断対象「刃物や電動工具の使用可否を評価し、必要なら安全な工具・工程へ変更する」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「刃物や電動工具の使用可否を評価し、必要なら安全な工具・工程へ変更する」が正答となる理由を直接説明している。

要点

正しい。工具の危険性と本人の注意・判断能力を照合して作業を選ぶ。判断対象は「刃物や電動工具の使用可否を評価し、必要なら安全な工具・工程へ変更する」。治療的活動では治療効果だけでなく、工具・材料・環境の危険性を作業分析へ含める。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q069

作業分析・治療的活動 > 革細工・陶芸等の作業・道具 | 基礎

手指訓練として革細工を提案したが、本人は興味がなく園芸を強く希望している。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「革細工だけを強制する」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 治療要求を満たす複数の作業から本人に意味あるものを選択できる。
- イ. 意味や価値は参加へ影響する。
- ウ. 作業療法で用いる作業は生活活動、仕事、遊びなど幅広い。
- エ. 動機づけと本人中心性を損なう。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「治療目的を満たす園芸作業があるか分析し、本人の興味を生かして活動を選ぶ」に対応する説明で、判断対象「革細工だけを強制する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「興味は治療効果と無関係とする」に対応する説明で、判断対象「革細工だけを強制する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「手工芸以外は作業療法ではないと説明する」に対応する説明で、判断対象「革細工だけを強制する」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「革細工だけを強制する」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。動機づけと本人中心性を損なう。判断対象は「革細工だけを強制する」。日本作業療法士協会は、作業を本人にとって目的や価値を持つ生活行為と定義している。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q070

作業分析・治療的活動 > 作業分析・段階付け | 基礎

片手で湯を注ぐ課題を分析したところ、最大の問題は『容器を固定しながらポットを操作できないこと』だった。作業分析結果の活用として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「固定具の導入や容器配置の変更など、問題となる課題要求を調整する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 作業分析で特定した『固定しながら操作する』要求を、道具や環境の変更によって本人の能力へ適合させる。
- イ. 本人が実行可能な工程や代償方法を検討する前に全介助へ固定しない。
- ウ. 機能訓練を行う場合も、目標作業で生じた問題との関連を明確にする必要がある。
- エ. 診断名の確認だけでは、作業遂行を妨げる具体的要求は変化しない。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「固定具の導入や容器配置の変更など、問題となる課題要求を調整する」が正答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「全ての工程を介助者が代行する」に対応する説明で、判断対象「固定具の導入や容器配置の変更など、問題となる課題要求を調整する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「問題となった工程とは無関係な筋力訓練だけを行う」に対応する説明で、判断対象「固定具の導入や容器配置の変更など、問題となる課題要求を調整する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「診断名だけを再確認して作業条件は変えない」に対応する説明で、判断対象「固定具の導入や容器配置の変更など、問題となる課題要求を調整する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。作業分析で特定した『固定しながら操作する』要求を、道具や環境の変更によって本人の能力へ適合させる。判断対象は「固定具の導入や容器配置の変更など、問題となる課題要求を調整する」。作業分析は作業を分解するだけでなく、本人と課題要求の不適合部分を見つけ、訓練・代償・環境調整のどこへ介入するか決めるために用いる。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q071

作業分析・治療的活動 > 作業分析・段階付け | 標準

立位での調理課題が疲労のため続かない患者に、同じ調理を低負荷で行わせたい。最も適切なものはどれか。この論点で、選択肢「休憩をなくす」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 姿勢を変えることで下肢・循環負荷を下げられる。
- イ. 疲労管理が難しくなる。
- ウ. 身体負荷が増える。
- エ. リーチ負荷が増える。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「高い椅子を使い座位または半座位で行う」に対応する説明で、判断対象「休憩をなくす」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「休憩をなくす」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「重い鍋に変える」に対応する説明で、判断対象「休憩をなくす」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「作業台を遠くする」に対応する説明で、判断対象「休憩をなくす」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。疲労管理が難しくなる。判断対象は「休憩をなくす」。同じ作業でも姿勢、時間、重量、距離を変えると身体要求を段階づけられる。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q072

作業分析・治療的活動 > 作業分析・段階付け | 標準

遂行機能障害がある患者の買い物課題を易しくする方法として適切なものはどれか。この論点で、選択肢「購入品を3品に限定した写真付きリストを用いる」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 外的手掛かりを利用できる。
- イ. 項目数と記憶・計画要求を減らす。
- ウ. 記憶負荷が高い。
- エ. 計画・転換・時間管理の負荷が高い。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「買い物リストを使わせない」に対応する説明で、判断対象「購入品を3品に限定した写真付きリストを用いる」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「購入品を3品に限定した写真付きリストを用いる」が正答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「20品を暗記して買う」に対応する説明で、判断対象「購入品を3品に限定した写真付きリストを用いる」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「複数店舗を時間制限付きで回る」に対応する説明で、判断対象「購入品を3品に限定した写真付きリストを用いる」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。項目数と記憶・計画要求を減らす。判断対象は「購入品を3品に限定した写真付きリストを用いる」。認知課題の段階づけでは工程数、同時処理、選択肢、時間制限、外的手掛かりを調整する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q073

作業分析・治療的活動 > 作業分析・段階付け | 標準

巧緻動作は可能だが速度が遅い患者に、次の段階として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「初回から健常者と同じ時間制限にする」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 機能的作業では速度と精度の両立が重要である。
- イ. 急な時間圧は代償や失敗を増やす。
- ウ. 正確性を維持しながら処理速度を段階的に高める。
- エ. 段階づけで改善を目指す。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「精度を無視して速度だけ上げる」に対応する説明で、判断対象「初回から健常者と同じ時間制限にする」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「初回から健常者と同じ時間制限にする」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「正確性を保てる範囲で徐々に時間条件を設定する」に対応する説明で、判断対象「初回から健常者と同じ時間制限にする」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「課題をやめる」に対応する説明で、判断対象「初回から健常者と同じ時間制限にする」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。急な時間圧は代償や失敗を増やす。判断対象は「初回から健常者と同じ時間制限にする」。課題難易度は速度・精度・持続時間を個別に変化させて設定できる。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q074

作業分析・治療的活動 > 作業分析・段階付け | 標準

片手で調理できるよう、まな板に食材固定用のピンを付けた。この介入として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「作業・環境の適応」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 道具を変更して作業要求を本人の能力へ適合させている。
- イ. 診断とは無関係である。
- ウ. 評価尺度ではない。
- エ. 身体機能への直接訓練ではない。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「作業・環境の適応」が正答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「病名変更」に対応する説明で、判断対象「作業・環境の適応」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「心理検査」に対応する説明で、判断対象「作業・環境の適応」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「筋力増強だけ」に対応する説明で、判断対象「作業・環境の適応」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。道具を変更して作業要求を本人の能力へ適合させている。判断対象は「作業・環境の適応」。作業適応では道具、方法、環境を変え、同じ作業目標を達成できるようにする。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q075

作業分析・治療的活動 > 作業分析・段階付け | 基礎

ベグ課題の速度は改善したが、本人が目標とするボタン掛けは変化していない。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「ボタン掛けを評価しない」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 介入を目標に近づける必要がある。
- イ. 手段的課題の成績と生活成果は同一ではない。
- ウ. 本人の目標作業を直接評価する。
- エ. 治療的活動の改善が目標作業へ汎化したか確認する必要がある。

OT06 Q076

作業分析・治療的活動 > 遊び・余暇・集団活動 | 基礎

作業療法で余暇活動を扱う理由として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「楽しみ、役割、対人交流、生活満足に関わる重要な作業だから」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 余暇・趣味は健康、幸福、社会参加に関わる作業である。
- イ. 治療手段にも生活目標にもなり得る。
- ウ. 本人の価値によって重要性は異なる。
- エ. 全年齢で重要になり得る。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「ベグだけを永久に続ける」に対応する説明で、判断対象「ボタン掛けを評価しない」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「ベグが改善したので治療目標達成とする」に対応する説明で、判断対象「ボタン掛けを評価しない」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「ボタン掛けを評価しない」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「ボタン操作に必要な要因を再分析し、実際の更衣練習を追加する」に対応する説明で、判断対象「ボタン掛けを評価しない」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。本人の目標作業を直接評価する。判断対象は「ボタン掛けを評価しない」。治療的活動はそれ自体の上達ではなく、意味ある作業遂行へつながったかで評価する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「楽しみ、役割、対人交流、生活満足に関わる重要な作業だから」が正答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「機能訓練と無関係だから」に対応する説明で、判断対象「楽しみ、役割、対人交流、生活満足に関わる重要な作業だから」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「仕事より重要でないため評価しない」に対応する説明で、判断対象「楽しみ、役割、対人交流、生活満足に関わる重要な作業だから」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「高齢者だけに必要だから」に対応する説明で、判断対象「楽しみ、役割、対人交流、生活満足に関わる重要な作業だから」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。余暇・趣味は健康、幸福、社会参加に関わる作業である。判断対象は「楽しみ、役割、対人交流、生活満足に関わる重要な作業だから」。作業療法ではADLだけでなく、その人らしい生活を構成する余暇・遊びも支援する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q077

作業分析・治療的活動 > 遊び・余暇・集団活動 | 標準

対人交流が苦手な患者を料理グループへ参加させる際に最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「失敗時に集団の前で批判する」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 心理的安全性を損なう。
- イ. 対人要求が高すぎる。
- ウ. 役割の構造化で参加しやすさと対人成功体験を作れる。
- エ. 予測可能性が低下する。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「失敗時に集団の前で批判する」が誤答となる理由を直接説明している。
イ：誤り。これは別の選択肢「初回からリーダーを任せる」に対応する説明で、判断対象「失敗時に集団の前で批判する」の直接の根拠ではない。
ウ：誤り。これは別の選択肢「材料を配るなど明確で小さな役割から開始する」に対応する説明で、判断対象「失敗時に集団の前で批判する」の直接の根拠ではない。
エ：誤り。これは別の選択肢「役割を説明しない」に対応する説明で、判断対象「失敗時に集団の前で批判する」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。心理的安全性を損なう。判断対象は「失敗時に集団の前で批判する」。集団活動では人数、役割、競争性、協力要求を調整して治療的負荷を設定する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q078

作業分析・治療的活動 > 遊び・余暇・集団活動 | 標準

発達障害児の作業療法で遊びを選ぶ際に最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「児の興味と発達水準を踏まえ、挑戦できるが成功可能な遊びを選ぶ」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 興味と能力の適合が自発的参加を促す。
- イ. 遊びは子どもの主要な作業である。
- ウ. 個人差が大きい。
- エ. 拒否や失敗を増やしやす。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「児の興味と発達水準を踏まえ、挑戦できるが成功可能な遊びを選ぶ」が正答となる理由を直接説明している。
イ：誤り。これは別の選択肢「遊びは治療目標にしない」に対応する説明で、判断対象「児の興味と発達水準を踏まえ、挑戦できるが成功可能な遊びを選ぶ」の直接の根拠ではない。
ウ：誤り。これは別の選択肢「年齢だけで全員同じ遊びにする」に対応する説明で、判断対象「児の興味と発達水準を踏まえ、挑戦できるが成功可能な遊びを選ぶ」の直接の根拠ではない。
エ：誤り。これは別の選択肢「苦手な遊びだけを強制する」に対応する説明で、判断対象「児の興味と発達水準を踏まえ、挑戦できるが成功可能な遊びを選ぶ」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。興味と能力の適合が自発的参加を促す。判断対象は「児の興味と発達水準を踏まえ、挑戦できるが成功可能な遊びを選ぶ」。遊びでは自発性を保ちながら、運動・認知・社会的要求を段階づける。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q079

作業分析・治療的活動 > 遊び・余暇・集団活動 | 基礎

脳卒中後、ADLは自立したが趣味の釣りをやめ『生活に張りがない』と話している。最も適切なものはどれか。この論点で、選択肢「ADL自立なので作業療法終了とする」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 意味ある余暇は作業療法の対象である。
- イ. ADL自立だけで生活再建が完了するとは限らない。
- ウ. 本人の価値を重視する。
- エ. 余暇はQOLや参加に関わるため再開支援の対象となる。

OT06 Q080

作業分析・治療的活動 > 職業関連作業 | 標準

復職評価で最初に確認すべき内容として最も適切なものはどれか。この論点で、選択肢「実際の仕事内容、作業時間、必要姿勢、重量、認知・対人要求」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 筋力は一要素にすぎない。
- イ. 通勤も就労継続に必要な作業である。
- ウ. 同じ診断でも職務要求は異なる。
- エ. 職務要求を具体的に分析して本人能力と照合する。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「趣味は医療と無関係と説明する」に対応する説明で、判断対象「ADL自立なので作業療法終了とする」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「ADL自立なので作業療法終了とする」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「本人の希望を確認しない」に対応する説明で、判断対象「ADL自立なので作業療法終了とする」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「釣りに必要な移動・道具操作・安全性を分析し、再開方法や代替形態を検討する」に対応する説明で、判断対象「ADL自立なので作業療法終了とする」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。ADL自立だけで生活再建が完了するとは限らない。判断対象は「ADL自立なので作業療法終了とする」。生活再建では『身の回りができる』から『その人らしい生活を送れる』へ目標を広げる。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「握力だけ」に対応する説明で、判断対象「実際の仕事内容、作業時間、必要姿勢、重量、認知・対人要求」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「通勤手段を除外した職場内作業だけ」に対応する説明で、判断対象「実際の仕事内容、作業時間、必要姿勢、重量、認知・対人要求」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「診断名だけ」に対応する説明で、判断対象「実際の仕事内容、作業時間、必要姿勢、重量、認知・対人要求」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「実際の仕事内容、作業時間、必要姿勢、重量、認知・対人要求」が正答となる理由を直接説明している。

要点

正しい。職務要求を具体的に分析して本人能力と照合する。判断対象は「実際の仕事内容、作業時間、必要姿勢、重量、認知・対人要求」。職業関連作業の評価では職務だけでなく通勤、休憩、勤務時間、職場環境も含める。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q081

作業分析・治療的活動 > 職業関連作業 | 標準

倉庫作業への復職を目指す患者に模擬作業を行う。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「初日から最大重量を扱う」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 職務特異性が低い。
- イ. 模擬作業は実際の職務要求へ段階的に近づける。
- ウ. 過負荷となる可能性がある。
- エ. 負荷調整の重要情報である。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「実職務を確認せず任意の運動を行う」に対応する説明で、判断対象「初日から最大重量を扱う」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「実職務の重量や持続時間を確認し、軽量・短時間から段階的に近づける」に対応する説明で、判断対象「初日から最大重量を扱う」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「初日から最大重量を扱う」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「疲労や疼痛を記録しない」に対応する説明で、判断対象「初日から最大重量を扱う」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。過負荷となる可能性がある。判断対象は「初日から最大重量を扱う」。職業訓練では単純な筋力向上ではなく、実際の仕事に必要な持久性・安全性・効率を評価する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q082

作業分析・治療的活動 > 職業関連作業 | 基礎

片麻痺後、事務職へ復職予定だが書類運搬と長時間立位が困難である。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「データ化、台車利用、座位作業など職務の本質を保った配慮を職場と検討する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 本人の役割を失う可能性がある。
- イ. まず合理的な調整可能性を検討する。
- ウ. 職務の目的を保ちながら方法・環境を調整する。
- エ. 本人中心の復職支援が必要である。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「全業務を同僚へ移す」に対応する説明で、判断対象「データ化、台車利用、座位作業など職務の本質を保った配慮を職場と検討する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「困難があるため退職を勧める」に対応する説明で、判断対象「データ化、台車利用、座位作業など職務の本質を保った配慮を職場と検討する」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「データ化、台車利用、座位作業など職務の本質を保った配慮を職場と検討する」が正答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「本人の職務目標を確認しない」に対応する説明で、判断対象「データ化、台車利用、座位作業など職務の本質を保った配慮を職場と検討する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。職務の目的を保ちながら方法・環境を調整する。判断対象は「データ化、台車利用、座位作業など職務の本質を保った配慮を職場と検討する」。復職支援では能力を仕事へ合わせるだけでなく、仕事側の方法・道具・時間を調整する視点も重要である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q083

地域・在宅作業療法 > 訪問・在宅生活支援 | 基礎

訪問作業療法の利点として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「住宅環境を変えることはできない」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 住宅改修や物品配置の変更を検討できる。
- イ. 病院と自宅では環境要求が異なる。
- ウ. 自宅では段差、家具配置、生活習慣など病院では分からない条件を確認できる。
- エ. 在宅支援では家族や生活習慣も重要な情報である。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「住宅環境を変えることはできない」が誤答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「病院内検査だけで自宅生活を完全に予測できる」に対応する説明で、判断対象「住宅環境を変えることはできない」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「本人が実際に生活している住環境と生活動作を直接確認できる」に対応する説明で、判断対象「住宅環境を変えることはできない」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「本人の家族や生活習慣を評価しなくてよい」に対応する説明で、判断対象「住宅環境を変えることはできない」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。住宅改修や物品配置の変更を検討できる。判断対象は「住宅環境を変えることはできない」。訪問作業療法では本人の能力と自宅環境との相互作用を直接評価し、実生活に即した支援へつなげる。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q084

地域・在宅作業療法 > 訪問・在宅生活支援 | 標準

病院ではトイレ移乗が自立していたが、自宅では便器が低く手すりもなく立ち上がれない。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「便器高や手すり位置を含め自宅条件で移乗を再評価し、環境調整を行う」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 便器高や支持物の有無も大きく影響する。
- イ. より制限の少ない改善策を検討する。
- ウ. 実生活上の困難は環境要求との不適合から生じている可能性がある。
- エ. 病院内能力を自宅へそのまま一般化できない。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「筋力低下だけが原因と判断する」に対応する説明で、判断対象「便器高や手すり位置を含め自宅条件で移乗を再評価し、環境調整を行う」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「トイレ使用を永久に中止する」に対応する説明で、判断対象「便器高や手すり位置を含め自宅条件で移乗を再評価し、環境調整を行う」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「便器高や手すり位置を含め自宅条件で移乗を再評価し、環境調整を行う」が正答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「病院で自立していたので介入不要とする」に対応する説明で、判断対象「便器高や手すり位置を含め自宅条件で移乗を再評価し、環境調整を行う」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。実生活上の困難は環境要求との不適合から生じている可能性がある。判断対象は「便器高や手すり位置を含め自宅条件で移乗を再評価し、環境調整を行う」。在宅作業療法では同じADLでも環境条件が変わると遂行能力が変化することを前提に評価する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q085

地域・在宅作業療法 > 訪問・在宅生活支援 | 標準

家族が転倒を心配し、本人ができる更衣まで全て介助している。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「家族の不安を無視する」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 家族の不安は介助行動に影響する重要な要因である。
- イ. 在宅では家族との共有が重要である。
- ウ. 過介助は能力使用の機会を減らす。
- エ. 本人の残存能力と家族の不安の双方を扱い、必要最小限の介助へ調整する。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「家族の不安を無視する」が誤答となる理由を直接説明している。
イ：誤り。これは別の選択肢「本人だけへ練習を指示し家族には説明しない」に対応する説明で、判断対象「家族の不安を無視する」の直接の根拠ではない。
ウ：誤り。これは別の選択肢「今後も全介助を続ける」に対応する説明で、判断対象「家族の不安を無視する」の直接の根拠ではない。
エ：誤り。これは別の選択肢「本人が安全に行える工程を確認し、家族へ見守りと必要部分だけの介助方法を伝える」に対応する説明で、判断対象「家族の不安を無視する」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。家族の不安は介助行動に影響する重要な要因である。判断対象は「家族の不安を無視する」。在宅支援では本人の自立度だけでなく、介護者が安全に継続できる介助方法を整える。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q086

地域・在宅作業療法 > 訪問・在宅生活支援 | 標準

独居高齢者が夜間トイレへ向かう途中で転倒した。訪問時の確認として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「夜間照明、動線、履物、立ち上がり、服薬、排泄頻度を確認する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 原因を一つに決めつけない。
- イ. 環境以外の要因も評価する。
- ウ. 夜間特有の条件を見逃す。
- エ. 転倒は身体機能、薬剤、環境、行動、時間帯など多因子で起こる。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「転倒を本人の不注意だけとする」に対応する説明で、判断対象「夜間照明、動線、履物、立ち上がり、服薬、排泄頻度を確認する」の直接の根拠ではない。
イ：誤り。これは別の選択肢「床だけ確認して終了する」に対応する説明で、判断対象「夜間照明、動線、履物、立ち上がり、服薬、排泄頻度を確認する」の直接の根拠ではない。
ウ：誤り。これは別の選択肢「昼間の歩行だけを見る」に対応する説明で、判断対象「夜間照明、動線、履物、立ち上がり、服薬、排泄頻度を確認する」の直接の根拠ではない。
エ：正しい。これは判断対象「夜間照明、動線、履物、立ち上がり、服薬、排泄頻度を確認する」が正答となる理由を直接説明している。

要点

正しい。転倒は身体機能、薬剤、環境、行動、時間帯など多因子で起こる。判断対象は「夜間照明、動線、履物、立ち上がり、服薬、排泄頻度を確認する」。在宅転倒予防では転倒が起きた具体的な時間・場所・行動を再構成し、修正可能な要因を探す。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q087

地域・在宅作業療法 > 訪問・在宅生活支援 | 標準

退院後の患者が『朝、自分で仏壇へ水を供えたい』と希望している。最も適切なのはどれか。
この論点で、選択肢「ADLではないので目標にしない」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 機能改善を生活目標へ結び付ける必要がある。
- イ. 家庭内役割も作業療法の重要な対象である。
- ウ. 本人に意味のある役割を具体的な生活行為として分析する。
- エ. 本人が望む参加を支援する。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「筋力訓練だけを目標にする」に対応する説明で、判断対象「ADLではないので目標にしない」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「ADLではないので目標にしない」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「仏壇までの移動、物品準備、水の運搬を分析し実現方法を検討する」に対応する説明で、判断対象「ADLではないので目標にしない」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「家族が代行すればよいとする」に対応する説明で、判断対象「ADLではないので目標にしない」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。家庭内役割も作業療法の重要な対象である。判断対象は「ADLではないので目標にしない」。在宅作業療法では標準的ADLだけでなく、その人らしい日課や家庭内役割を支援する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q088

地域・在宅作業療法 > 訪問・在宅生活支援 | 応用

在宅患者の入浴に家族が毎回40分かかり腰痛も悪化している。本人は自宅入浴継続を希望している。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「本人の能力、浴室環境、福祉用具、介助方法を評価し、本人と家族双方の負担を減らす方法を検討する」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 介護者負担は在宅生活継続へ影響する。
- イ. 介護継続性を含めて本人と介護者双方に適した方法を探る。
- ウ. 本人の希望と家族の安全の両方を扱う。
- エ. より制限の少ない代替策を検討する。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「家族に我慢を求める」に対応する説明で、判断対象「本人の能力、浴室環境、福祉用具、介助方法を評価し、本人と家族双方の負担を減らす方法を検討する」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「本人の能力、浴室環境、福祉用具、介助方法を評価し、本人と家族双方の負担を減らす方法を検討する」が正答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「本人の希望だけを優先して介助方法を変えない」に対応する説明で、判断対象「本人の能力、浴室環境、福祉用具、介助方法を評価し、本人と家族双方の負担を減らす方法を検討する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「入浴を永久禁止する」に対応する説明で、判断対象「本人の能力、浴室環境、福祉用具、介助方法を評価し、本人と家族双方の負担を減らす方法を検討する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。介護継続性を含めて本人と介護者双方に適した方法を探る。判断対象は「本人の能力、浴室環境、福祉用具、介助方法を評価し、本人と家族双方の負担を減らす方法を検討する」。在宅支援は本人の自立だけでなく、家族を含む生活システム全体が持続可能かを評価する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q089

地域・在宅作業療法 > MTDLP・地域作業療法 | 基礎

生活行為向上マネジメント MTDLP で重視されるのはどれか。この論点で、選択肢「診断名だけ」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. MTDLPは本人にとって意味のある生活行為へ焦点を当てる。
- イ. 本人と目標を共有することが重要である。
- ウ. 検査値は生活課題を理解する一材料である。
- エ. 診断名だけでは生活行為を決められない。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「本人がしたい・する必要がある・することが期待されている生活行為」に対応する説明で、判断対象「診断名だけ」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「治療者が選んだ訓練課題だけ」に対応する説明で、判断対象「診断名だけ」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「検査値だけ」に対応する説明で、判断対象「診断名だけ」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「診断名だけ」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。診断名だけでは生活行為を決められない。判断対象は「診断名だけ」。日本作業療法士協会はMTDLPを、本人の『したい・する必要がある・することが期待されている』生活行為に焦点を当てる作業療法実践の手法としている。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q090

地域・在宅作業療法 > MTDLP・地域作業療法 | 標準

MTDLPの進め方として最も適切なものはどれか。この論点で、選択肢「本人の意向を確認し、取り組む生活行為と目標を共有する」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 本人中心の過程ではない。
- イ. 生活行為目標へ機能目標を結び付ける。
- ウ. 対象者との目標共有と主体的関与がMTDLPの中核となる。
- エ. 家族意向も重要だが本人の意向と統合する。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「治療者だけで目標を決定する」に対応する説明で、判断対象「本人の意向を確認し、取り組む生活行為と目標を共有する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「身体機能目標だけを設定する」に対応する説明で、判断対象「本人の意向を確認し、取り組む生活行為と目標を共有する」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「本人の意向を確認し、取り組む生活行為と目標を共有する」が正答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「家族の希望だけを採用する」に対応する説明で、判断対象「本人の意向を確認し、取り組む生活行為と目標を共有する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。対象者との目標共有と主体的関与がMTDLPの中核となる。判断対象は「本人の意向を確認し、取り組む生活行為と目標を共有する」。MTDLPでは生活行為を中心に据え、本人と協働して課題と行動計画を整理する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q091

地域・在宅作業療法 > MTDLP・地域作業療法 | 標準

『近所のスーパーへ一人で買い物に行く』という生活行為をMTDLPで検討する際に適切なものはどれか。この論点で、選択肢「歩行速度だけで判断する」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 生活行為は心身機能、活動・参加、環境など複数要因から分析する。
- イ. 本人の意向が出発点となる。
- ウ. 地域環境は実現可能性へ大きく影響する。
- エ. 買い物には認知・金銭・交通なども必要である。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「身体機能、買い物手順、交通、店内環境、支援者などを統合して実現可能性を考える」に対応する説明で、判断対象「歩行速度だけで判断する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「本人の希望を評価しない」に対応する説明で、判断対象「歩行速度だけで判断する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「環境因子を除外する」に対応する説明で、判断対象「歩行速度だけで判断する」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「歩行速度だけで判断する」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。買い物には認知・金銭・交通なども必要である。判断対象は「歩行速度だけで判断する」。MTDLPの課題分析では、対象者の24時間365日の生活をイメージしながら実現を促す要因と妨げる要因を整理する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q092

地域・在宅作業療法 > MTDLP・地域作業療法 | 標準

退院後に趣味活動を再開したいが、地域に知人がいない高齢者への地域作業療法として適切なものはどれか。この論点で、選択肢「本人の興味に合う地域サロンや趣味団体を探し、参加方法を一緒に検討する」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 地域資源と本人の興味・能力をつなげて参加を支援する。
- イ. 環境側への働きかけも作業療法の役割となる。
- ウ. 地域資源は重要な環境因子である。
- エ. 地域生活への汎化が必要である。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「本人の興味に合う地域サロンや趣味団体を探し、参加方法を一緒に検討する」が正答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「社会参加は本人だけの責任とする」に対応する説明で、判断対象「本人の興味に合う地域サロンや趣味団体を探し、参加方法を一緒に検討する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「地域資源を評価しない」に対応する説明で、判断対象「本人の興味に合う地域サロンや趣味団体を探し、参加方法を一緒に検討する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「訓練室内活動だけを続ける」に対応する説明で、判断対象「本人の興味に合う地域サロンや趣味団体を探し、参加方法を一緒に検討する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。地域資源と本人の興味・能力をつなげて参加を支援する。判断対象は「本人の興味に合う地域サロンや趣味団体を探し、参加方法を一緒に検討する」。地域作業療法では本人への介入だけでなく、地域資源や人とのつながりを作る視点が重要である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q093

地域・在宅作業療法 > MTDLP・地域作業療法 | 標準

生活行為目標の実現に訪問看護、ケアマネジャー、家族の協力が必要である。MTDLPの考え方として適切なのはどれか。この論点で、選択肢「作業療法士だけで完結させる」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 生活課題は一職種で解決できないことが多い。
- イ. MTDLPは対象者の生活に関わる専門職・家族・地域の人々との協働を重視する。
- ウ. 家族の生活状況も考慮する。
- エ. 共通目標が連携の基盤となる。

答え・4肢解説

正答：ア

- ア：正しい。これは判断対象「作業療法士だけで完結させる」が誤答となる理由を直接説明している。
- イ：誤り。これは別の選択肢「目標と役割分担を関係者で共有し協働する」に対応する説明で、判断対象「作業療法士だけで完結させる」の直接の根拠ではない。
- ウ：誤り。これは別の選択肢「家族へ一方的に課題を課す」に対応する説明で、判断対象「作業療法士だけで完結させる」の直接の根拠ではない。
- エ：誤り。これは別の選択肢「他職種へ生活目標を伝えない」に対応する説明で、判断対象「作業療法士だけで完結させる」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。生活課題は一職種で解決できないことが多い。判断対象は「作業療法士だけで完結させる」。本人の生活行為を共通目標にすると、多職種の介入を生活成果へ統合しやすくなる。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q094

地域・在宅作業療法 > MTDLP・地域作業療法 | 応用

MTDLPで『自宅で家族の夕食を週2回作る』ことを目標にした。効果判定として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「実際の調理頻度、介助量、本人の満足度と課題を再評価する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 共有した目標へ戻って評価する必要がある。
- イ. 握力変化だけでは目標達成を示さない。
- ウ. 生活行為そのものがどの程度実現したかを確認する。
- エ. 治療量と生活成果は異なる。

答え・4肢解説

正答：ウ

- ア：誤り。これは別の選択肢「目標生活行為を確認しない」に対応する説明で、判断対象「実際の調理頻度、介助量、本人の満足度と課題を再評価する」の直接の根拠ではない。
- イ：誤り。これは別の選択肢「握力だけを再測定する」に対応する説明で、判断対象「実際の調理頻度、介助量、本人の満足度と課題を再評価する」の直接の根拠ではない。
- ウ：正しい。これは判断対象「実際の調理頻度、介助量、本人の満足度と課題を再評価する」が正答となる理由を直接説明している。
- エ：誤り。これは別の選択肢「訓練参加回数だけで判断する」に対応する説明で、判断対象「実際の調理頻度、介助量、本人の満足度と課題を再評価する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。生活行為そのものがどの程度実現したかを確認する。判断対象は「実際の調理頻度、介助量、本人の満足度と課題を再評価する」。MTDLPでは生活行為の実現度と本人の認識を評価し、必要に応じて計画を修正する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q095

地域・在宅作業療法 > 介護保険・地域包括ケア | 基礎

地域包括支援センターの役割として正しいのはどれか。この論点で、選択肢「介護保険料の徴収だけを行う」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 役割は保険料徴収に限定されない。
- イ. 地域包括支援センターは地域包括ケアを支える中核的機関である。
- ウ. 高齢者支援を幅広く扱う。
- エ. 医療機関の手術部門ではない。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「介護保険料の徴収だけを行う」が誤答となる理由を直接説明している。
イ：誤り。これは別の選択肢「高齢者の総合相談、権利擁護、介護予防支援、地域の支援体制づくりを行う」に対応する説明で、判断対象「介護保険料の徴収だけを行う」の直接の根拠ではない。
ウ：誤り。これは別の選択肢「職業紹介だけを行う」に対応する説明で、判断対象「介護保険料の徴収だけを行う」の直接の根拠ではない。
エ：誤り。これは別の選択肢「病院内の手術だけを行う」に対応する説明で、判断対象「介護保険料の徴収だけを行う」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。役割は保険料徴収に限定されない。判断対象は「介護保険料の徴収だけを行う」。厚生労働省は地域包括支援センターを、総合相談・権利擁護・介護予防等を包括的に支援する市町村設置の中核機関としている。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q096

地域・在宅作業療法 > 介護保険・地域包括ケア | 標準

地域包括ケアの考え方として最も適切なものはどれか。この論点で、選択肢「医療・介護・予防・生活支援・住まいを地域で一体的に支える」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 住まいは生活基盤として重要である。
- イ. 地域生活には医療以外の支援も必要である。
- ウ. 高齢者が地域で生活を継続できるよう複数領域を統合する。
- エ. 生活支援や予防等も含む。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「住まいは支援対象としない」に対応する説明で、判断対象「医療・介護・予防・生活支援・住まいを地域で一体的に支える」の直接の根拠ではない。
イ：誤り。これは別の選択肢「病院医療だけで完結させる」に対応する説明で、判断対象「医療・介護・予防・生活支援・住まいを地域で一体的に支える」の直接の根拠ではない。
ウ：正しい。これは判断対象「医療・介護・予防・生活支援・住まいを地域で一体的に支える」が正答となる理由を直接説明している。
エ：誤り。これは別の選択肢「介護サービスだけを提供する」に対応する説明で、判断対象「医療・介護・予防・生活支援・住まいを地域で一体的に支える」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。高齢者が地域で生活を継続できるよう複数領域を統合する。判断対象は「医療・介護・予防・生活支援・住まいを地域で一体的に支える」。地域包括ケアではサービスの数ではなく、本人の地域生活を切れ目なく支える連携が重要となる。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q097

地域・在宅作業療法 > 介護保険・地域包括ケア | 標準

訪問作業療法で入浴介助量が減り、家族の負担も軽くなった。ケアマネジャーへの情報共有として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「改善したことだけを抽象的に伝える」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 何がどの程度変わったかが必要である。
- イ. 生活成果がケアマネジメントに重要である。
- ウ. 地域支援では連携が重要である。
- エ. 生活上の変化を具体的に共有するとサービス調整へつながる。

OT06 Q098

地域・在宅作業療法 > 介護保険・地域包括ケア | 標準

要介護高齢者が一人暮らしを継続したいが、入浴と買い物に支援が必要である。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「本人の能力と希望を確認し、訪問・通所・福祉用具等を必要に応じ組み合わせる」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 本人中心のケアマネジメントが重要である。
- イ. 複数サービス・社会資源を組み合わせる場合がある。
- ウ. 生活課題ごとに必要な支援を組み合わせる。
- エ. サービス利用も自立支援を目的に設計する。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「改善したことだけを抽象的に伝える」が誤答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「訓練内容だけ伝え生活変化を伝えない」に対応する説明で、判断対象「改善したことだけを抽象的に伝える」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「情報共有しない」に対応する説明で、判断対象「改善したことだけを抽象的に伝える」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「具体的な能力変化と必要支援量を共有し、ケアプラン見直しに活用してもらう」に対応する説明で、判断対象「改善したことだけを抽象的に伝える」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。何がどの程度変わったかが必要である。判断対象は「改善したことだけを抽象的に伝える」。地域連携では専門職の介入内容より、本人の生活にどのような変化が生じたかを共有する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「本人の希望を確認しない」に対応する説明で、判断対象「本人の能力と希望を確認し、訪問・通所・福祉用具等を必要に応じ組み合わせる」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「一つのサービスだけで全て解決すると考える」に対応する説明で、判断対象「本人の能力と希望を確認し、訪問・通所・福祉用具等を必要に応じ組み合わせる」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「本人の能力と希望を確認し、訪問・通所・福祉用具等を必要に応じ組み合わせる」が正答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「介護保険サービスの利用で自立支援は不要になる」に対応する説明で、判断対象「本人の能力と希望を確認し、訪問・通所・福祉用具等を必要に応じ組み合わせる」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。生活課題ごとに必要な支援を組み合わせる。判断対象は「本人の能力と希望を確認し、訪問・通所・福祉用具等を必要に応じ組み合わせる」。介護保険下の作業療法ではサービス利用そのものではなく、本人の生活目標と自立度の向上・維持へ結び付ける。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q099

地域・在宅作業療法 > 介護保険・地域包括ケア | 応用

退院後すぐ訪問サービス開始予定だが、病院で使用していた移乗方法が在宅スタッフへ伝わっていない。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「在宅で一から試してもらう」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 関係職種にも直接共有する必要がある。
- イ. 診断名だけでは介助方法が分からない。
- ウ. 移行期は具体的な生活支援情報を多職種で共有する。
- エ. 安全性と継続性を損なう可能性がある。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「家族だけに口頭で伝える」に対応する説明で、判断対象「在宅で一から試してもらう」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「診断名だけ伝える」に対応する説明で、判断対象「在宅で一から試してもらう」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「退院前カンファレンス等で移乗方法、禁忌、福祉用具、介助量を具体的に共有する」に対応する説明で、判断対象「在宅で一から試してもらう」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「在宅で一から試してもらう」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。安全性と継続性を損なう可能性がある。判断対象は「在宅で一から試してもらう」。地域包括ケアでは場所が変わっても支援が連続するよう、移行時の情報連携を重視する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q100

地域・在宅作業療法 > 介護予防・健康増進 | 基礎

介護予防の目的として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「要介護状態の発生を予防し、生活機能の低下や重度化を防ぐ」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 適切な活動と参加を促す。
- イ. 生活機能を維持する視点が重要である。
- ウ. 社会参加は保護因子となり得る。
- エ. 介護予防は要介護状態の予防や軽減・悪化防止を目指す。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「高齢者の活動を減らす」に対応する説明で、判断対象「要介護状態の発生を予防し、生活機能の低下や重度化を防ぐ」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「病気を完全になくすことだけを目的とする」に対応する説明で、判断対象「要介護状態の発生を予防し、生活機能の低下や重度化を防ぐ」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「外出を控えさせる」に対応する説明で、判断対象「要介護状態の発生を予防し、生活機能の低下や重度化を防ぐ」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「要介護状態の発生を予防し、生活機能の低下や重度化を防ぐ」が正答となる理由を直接説明している。

要点

正しい。介護予防は要介護状態の予防や軽減・悪化防止を目指す。判断対象は「要介護状態の発生を予防し、生活機能の低下や重度化を防ぐ」。介護予防では運動だけでなく、栄養、口腔、社会参加、日常活動を含む生活全体を扱う。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q101

地域・在宅作業療法 > 介護予防・健康増進 | 標準

外出頻度が減り閉じこもり傾向の高齢者への介護予防として適切なのはどれか。この論点で、選択肢「運動以外の活動は無意味とする」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 継続には本人の意味や興味が重要である。
- イ. 社会参加も生活機能維持に重要である。
- ウ. 不活動を助長する可能性がある。
- エ. 地域活動は身体活動と社会交流の機会になる。

OT06 Q102

地域・在宅作業療法 > 介護予防・健康増進 | 標準

運動習慣のない高齢者が『運動教室は苦手だが買い物は好き』と話す。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「徒歩で行ける店への買い物など本人の好む生活活動で身体活動量を増やす」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 本人に意味ある日常活動へ健康増進行動を組み込むと継続しやすい。
- イ. 活動機会を減らす。
- ウ. 本人の好みを生かした選択肢を検討する。
- エ. 本人と共有する。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「本人の興味を確認しない」に対応する説明で、判断対象「運動以外の活動は無意味とする」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「運動以外の活動は無意味とする」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「自宅で安静にするよう勧める」に対応する説明で、判断対象「運動以外の活動は無意味とする」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「本人の興味に合う通いの場や地域活動への参加を支援する」に対応する説明で、判断対象「運動以外の活動は無意味とする」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。社会参加も生活機能維持に重要である。判断対象は「運動以外の活動は無意味とする」。健康増進では訓練としての運動だけでなく、日常生活の中で活動と参加を増やす。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「徒歩で行ける店への買い物など本人の好む生活活動で身体活動量を増やす」が正答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「買い物量を減らす」に対応する説明で、判断対象「徒歩で行ける店への買い物など本人の好む生活活動で身体活動量を増やす」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「運動教室だけを強制する」に対応する説明で、判断対象「徒歩で行ける店への買い物など本人の好む生活活動で身体活動量を増やす」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「活動目標を治療者だけで決める」に対応する説明で、判断対象「徒歩で行ける店への買い物など本人の好む生活活動で身体活動量を増やす」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。本人に意味ある日常活動へ健康増進行動を組み込むと継続しやすい。判断対象は「徒歩で行ける店への買い物など本人の好む生活活動で身体活動量を増やす」。作業療法の健康増進では、健康行動を本人の役割・習慣・楽しみに埋め込む視点が有用である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q103

地域・在宅作業療法 > 介護予防・健康増進 | 応用

地域の介護予防教室で握力は改善したが、外出回数や生活範囲は変わらない。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「握力が改善したので十分とする」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 環境・興味・交通などの要因を確認する。
- イ. 参加も重要なアウトカムである。
- ウ. 身体機能改善だけで生活成果を保証しない。
- エ. 介護予防の最終的な目的は生活機能・参加の維持改善にある。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「外出が増えない理由を調べない」に対応する説明で、判断対象「握力が改善したので十分とする」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「生活範囲は評価しない」に対応する説明で、判断対象「握力が改善したので十分とする」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「握力が改善したので十分とする」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「身体機能だけでなく外出・役割・社会参加を評価しプログラムを見直す」に対応する説明で、判断対象「握力が改善したので十分とする」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。身体機能改善だけで生活成果を保証しない。判断対象は「握力が改善したので十分とする」。介護予防では機能指標とともに、日常生活・社会参加が実際に広がったかを評価する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q104

地域・在宅作業療法 > 終末期・多疾患併存 | 標準

終末期で体力が低下した患者が『家族と食卓を囲みたい』と希望している。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「疲労が少ない時間帯や座位支持を調整し、短時間でも実現できる方法を検討する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 機能改善だけが目標ではない。
- イ. 終末期では本人にとって重要な作業と快適性を優先する。
- ウ. 症状負担に応じて活動量を調整する。
- エ. 可能な形で参加を支援する。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「筋力訓練を優先して希望を後回しにする」に対応する説明で、判断対象「疲労が少ない時間帯や座位支持を調整し、短時間でも実現できる方法を検討する」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「疲労が少ない時間帯や座位支持を調整し、短時間でも実現できる方法を検討する」が正答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「予定された訓練量を必ず実施する」に対応する説明で、判断対象「疲労が少ない時間帯や座位支持を調整し、短時間でも実現できる方法を検討する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「食卓参加を禁止する」に対応する説明で、判断対象「疲労が少ない時間帯や座位支持を調整し、短時間でも実現できる方法を検討する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。終末期では本人にとって重要な作業と快適性を優先する。判断対象は「疲労が少ない時間帯や座位支持を調整し、短時間でも実現できる方法を検討する」。終末期作業療法では限られたエネルギーを本人が大切に作る作業へ配分する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q105

地域・在宅作業療法 > 終末期・多疾患併存 | 応用

心不全、変形性膝関節症、軽度認知障害を併存する高齢者がいる。最も適切なのはどれか。
この論点で、選択肢「全疾患へ別々の課題を大量に行う」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 総負荷が過大となる可能性がある。
- イ. 他疾患の影響を見逃す。
- ウ. 自己管理方法の理解・実行へ影響する。
- エ. 多疾患併存では一疾患だけの標準プログラムではなく全身状態を統合する。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「全疾患へ別々の課題を大量に行う」が誤答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「最も重い診断名だけを見て介入する」に対応する説明で、判断対象「全疾患へ別々の課題を大量に行う」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「認知機能は生活指導へ影響しないと考える」に対応する説明で、判断対象「全疾患へ別々の課題を大量に行う」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「各疾患の禁忌・症状と本人の生活目標を統合して活動量と方法を定める」に対応する説明で、判断対象「全疾患へ別々の課題を大量に行う」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。総負荷が過大となる可能性がある。判断対象は「全疾患へ別々の課題を大量に行う」。多疾患併存では医学的安全性、薬剤、疲労、認知、環境を一つの生活計画へ統合する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q106

地域・在宅作業療法 > 終末期・多疾患併存 | 応用

本人は自宅で過ごすことを望むが、家族は介護に強い不安を訴えている。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「本人の意思と家族の負担を確認し、訪問サービスや福祉用具を含む支援体制を多職種で検討する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 本人の意思決定参加を支える。
- イ. 終末期支援は多職種で行う。
- ウ. 本人の価値と家族の介護可能性を両方尊重し支援体制を整える。
- エ. 在宅継続には家族負担の評価が必要である。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「家族の意向だけで施設入所を決める」に対応する説明で、判断対象「本人の意思と家族の負担を確認し、訪問サービスや福祉用具を含む支援体制を多職種で検討する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「作業療法士が単独で方針を決める」に対応する説明で、判断対象「本人の意思と家族の負担を確認し、訪問サービスや福祉用具を含む支援体制を多職種で検討する」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「本人の意思と家族の負担を確認し、訪問サービスや福祉用具を含む支援体制を多職種で検討する」が正答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「本人の希望だけで家族の不安を無視する」に対応する説明で、判断対象「本人の意思と家族の負担を確認し、訪問サービスや福祉用具を含む支援体制を多職種で検討する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。本人の価値と家族の介護可能性を両方尊重し支援体制を整える。判断対象は「本人の意思と家族の負担を確認し、訪問サービスや福祉用具を含む支援体制を多職種で検討する」。在宅終末期支援では本人の望む生活と、現実持続可能な支援体制を共同意思決定で調整する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q107

就労・教育・社会参加 > 就労移行・継続・定着支援 | 基礎

2026年時点の障害福祉における就労選択支援の説明として正しいのはどれか。この論点で、選択肢「就労希望を確認せず利用先を決める」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. これは就労継続支援A型の特徴に近い。
- イ. 就職後の定着だけを目的とするサービスではない。
- ウ. 本人の希望、就労能力、適性等を整理し選択を支援する。
- エ. 本人の選択を支援する制度である。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「雇用契約に基づく就労機会を恒久的に提供する」に対応する説明で、判断対象「就労希望を確認せず利用先を決める」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「一般企業への就職後だけに利用する」に対応する説明で、判断対象「就労希望を確認せず利用先を決める」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「就労アセスメントを活用し、本人が就労先や働き方をよりよく選べるよう支援する」に対応する説明で、判断対象「就労希望を確認せず利用先を決める」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「就労希望を確認せず利用先を決める」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。本人の選択を支援する制度である。判断対象は「就労希望を確認せず利用先を決める」。厚生労働省は就労系障害福祉サービスを就労選択、移行、継続A・B、定着の5種類として整理している。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q108

就労・教育・社会参加 > 就労移行・継続・定着支援 | 基礎

就労移行支援として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「一般企業への就労が見込まれる人へ、一定期間、就労に必要な知識・能力向上の訓練を行う」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 就労定着支援の説明に近い。
- イ. 一般就労へ移行するための訓練等を行う。
- ウ. 障害福祉サービスである。
- エ. A型の説明に近い。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「一般就労後の生活課題だけを支援する」に対応する説明で、判断対象「一般企業への就労が見込まれる人へ、一定期間、就労に必要な知識・能力向上の訓練を行う」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「一般企業への就労が見込まれる人へ、一定期間、就労に必要な知識・能力向上の訓練を行う」が正答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「介護保険の通所介護を指す」に対応する説明で、判断対象「一般企業への就労が見込まれる人へ、一定期間、就労に必要な知識・能力向上の訓練を行う」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「雇用契約に基づく就労の場だけを恒久的に提供する」に対応する説明で、判断対象「一般企業への就労が見込まれる人へ、一定期間、就労に必要な知識・能力向上の訓練を行う」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。一般就労へ移行するための訓練等を行う。判断対象は「一般企業への就労が見込まれる人へ、一定期間、就労に必要な知識・能力向上の訓練を行う」。就労移行支援では作業技能だけでなく、生活リズム、対人技能、求職活動なども支援対象となる。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q109

就労・教育・社会参加 > 就労移行・継続・定着支援 | 基礎

就労継続支援事業所で、作業速度は遅いが検品の正確性が高い利用者がいる。作業療法士の支援として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「作業速度だけで能力が低いと判断する」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 強みと作業要求を照合し、本人が安定して役割を担える工程と負荷を設定する。
- イ. 就労能力は速度だけでなく正確性、持続性、対人面など多面的に評価する。
- ウ. 本人の希望と事業所の作業要求を照合して調整する。
- エ. 強みを活用しながら必要な技能を段階的に広げる。

OT06 Q110

就労・教育・社会参加 > 就労移行・継続・定着支援 | 基礎

就労定着支援で扱う課題として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「一般就労後に生じる職場・生活上の問題について企業や医療機関等と連絡調整し支援する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 定着を支える制度である。
- イ. 就労継続に必要な生活・社会面の課題へ支援を行う。
- ウ. 就職前教育だけのサービスではない。
- エ. 就学支援とは異なる。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「正確性という強みを生かせる工程を検討し、疲労や作業速度をみながら役割を調整する」に対応する説明で、判断対象「作業速度だけで能力が低いと判断する」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「作業速度だけで能力が低いと判断する」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「本人の希望を確認せず作業配置を固定する」に対応する説明で、判断対象「作業速度だけで能力が低いと判断する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「得意な工程を避け、苦手作業だけを行わせる」に対応する説明で、判断対象「作業速度だけで能力が低いと判断する」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。就労能力は速度だけでなく正確性、持続性、対人面など多面的に評価する。判断対象は「作業速度だけで能力が低いと判断する」。就労継続支援での作業療方は、制度利用そのものではなく、本人の強み・課題と作業工程を分析して役割・環境を適合させることが重要である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「就職後は支援を終了する」に対応する説明で、判断対象「一般就労後に生じる職場・生活上の問題について企業や医療機関等と連絡調整し支援する」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「一般就労後に生じる職場・生活上の問題について企業や医療機関等と連絡調整し支援する」が正答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「就職前の学科試験だけを行う」に対応する説明で、判断対象「一般就労後に生じる職場・生活上の問題について企業や医療機関等と連絡調整し支援する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「学校在学中の授業支援だけを行う」に対応する説明で、判断対象「一般就労後に生じる職場・生活上の問題について企業や医療機関等と連絡調整し支援する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。就労継続に必要な生活・社会面の課題へ支援を行う。判断対象は「一般就労後に生じる職場・生活上の問題について企業や医療機関等と連絡調整し支援する」。就労定着では職務遂行だけでなく生活リズム、通勤、対人関係など就労継続に関わる要因を扱う。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q111

就労・教育・社会参加 > 就労移行・継続・定着支援 | 標準

就労支援で最も適切な評価はどれか。この論点で、選択肢「診断名だけで職種を決める」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 就労は本人と職務・環境の適合で考える。
- イ. 就労能力は多面的である。
- ウ. 本人の選択が重要である。
- エ. 同じ診断でも能力・適職は異なる。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「本人の作業速度・正確性・持続性と、希望職の職務要求・勤務条件を照合する」に対応する説明で、判断対象「診断名だけで職種を決める」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「握力だけで就労可否を判断する」に対応する説明で、判断対象「診断名だけで職種を決める」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「本人の希望を聞かない」に対応する説明で、判断対象「診断名だけで職種を決める」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「診断名だけで職種を決める」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。同じ診断でも能力・適職は異なる。判断対象は「診断名だけで職種を決める」。作業療法士は模擬作業や実習場を用い、技能だけでなく疲労、認知、対人、自己管理を評価する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q112

就労・教育・社会参加 > 就労移行・継続・定着支援 | 標準

作業能力は高いが、昼夜逆転で週5日の朝出勤が難しい。最も適切なものはどれか。この論点で、選択肢「起床・通勤を想定した生活リズムを段階的に整え、勤務継続可能性を評価する」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 遅刻・欠勤へつながり得る。
- イ. 本人の希望と職場条件を踏まえる。
- ウ. 安定就労には職務技能だけでなく生活リズムが必要である。
- エ. 調整可能な課題として支援する。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「作業能力が高いので生活リズムは無視する」に対応する説明で、判断対象「起床・通勤を想定した生活リズムを段階的に整え、勤務継続可能性を評価する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「夜勤だけを一方的に勤める」に対応する説明で、判断対象「起床・通勤を想定した生活リズムを段階的に整え、勤務継続可能性を評価する」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「起床・通勤を想定した生活リズムを段階的に整え、勤務継続可能性を評価する」が正答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「就労希望を中止させる」に対応する説明で、判断対象「起床・通勤を想定した生活リズムを段階的に整え、勤務継続可能性を評価する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。安定就労には職務技能だけでなく生活リズムが必要である。判断対象は「起床・通勤を想定した生活リズムを段階的に整え、勤務継続可能性を評価する」。就労支援では働く時間以外の睡眠、服薬、食事、通勤を含めた一日の生活構造を評価する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q113

就労・教育・社会参加 > 就労移行・継続・定着支援 | 応用

職場実習では単純作業は正確だが、予定変更があると混乱して作業停止する。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「混乱を性格の問題とする」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 実習で明らかになった具体的障壁へ対処技能・環境調整を行う。
- イ. まず調整可能性を検討する。
- ウ. 認知特性や不安等を評価する。
- エ. 変化対応も職務要求の一部である。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「予定変更時の手順確認方法や相談方法を練習し、職場で使える支援策を検討する」に対応する説明で、判断対象「混乱を性格の問題とする」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「変更がある職場を全て禁止する」に対応する説明で、判断対象「混乱を性格の問題とする」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「混乱を性格の問題とする」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「単純作業ができるので支援不要とする」に対応する説明で、判断対象「混乱を性格の問題とする」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。認知特性や不安等を評価する。判断対象は「混乱を性格の問題とする」。就労評価は合否判定ではなく、働き続けるために必要な支援条件を見つけるために行う。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q114

就労・教育・社会参加 > 就労移行・継続・定着支援 | 応用

一般就労を希望しているが、自分に合う働き方や支援量が分からない障害者への初期支援として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「就労選択支援等で本人の希望・能力・適性を整理し、適切な就労系サービスや一般就労を検討する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 本人中心の選択が必要である。
- イ. 利用先を固定する前に本人の希望と能力を整理する。
- ウ. 機能・環境・職務条件を含めて判断する。
- エ. 本人の選択を支えるためにアセスメントを活用する。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「本人の希望を聞かずA型へ決める」に対応する説明で、判断対象「就労選択支援等で本人の希望・能力・適性を整理し、適切な就労系サービスや一般就労を検討する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「最初からB型利用に固定する」に対応する説明で、判断対象「就労選択支援等で本人の希望・能力・適性を整理し、適切な就労系サービスや一般就労を検討する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「就労可能性を診断名だけで決める」に対応する説明で、判断対象「就労選択支援等で本人の希望・能力・適性を整理し、適切な就労系サービスや一般就労を検討する」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「就労選択支援等で本人の希望・能力・適性を整理し、適切な就労系サービスや一般就労を検討する」が正答となる理由を直接説明している。

要点

正しい。本人の選択を支えるためにアセスメントを活用する。判断対象は「就労選択支援等で本人の希望・能力・適性を整理し、適切な就労系サービスや一般就労を検討する」。2026年時点では就労選択支援を含む5種類の就労系障害福祉サービスを目的別に理解することが重要である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q115

就労・教育・社会参加 > ジョブコーチ・合理的配慮 | 基礎

ジョブコーチ支援の説明として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「本人に代わって全仕事を行う」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. ジョブコーチは実際の職場で職務遂行・職場適応を支える。
- イ. 職場支援が中心である。
- ウ. 本人が仕事を遂行できるよう支援する。
- エ. 職場での具体的支援を行う。

答え・4肢解説

正答：ウ

- ア：誤り。これは別の選択肢「職場で具体的な支援計画に基づき、本人の職務遂行や職場適応を支援する」に対応する説明で、判断対象「本人に代わって全仕事を行う」の直接の根拠ではない。
- イ：誤り。これは別の選択肢「病院内だけで筋力訓練を行う」に対応する説明で、判断対象「本人に代わって全仕事を行う」の直接の根拠ではない。
- ウ：正しい。これは判断対象「本人に代わって全仕事を行う」が誤答となる理由を直接説明している。
- エ：誤り。これは別の選択肢「就職前の筆記試験だけを行う」に対応する説明で、判断対象「本人に代わって全仕事を行う」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。本人が仕事を遂行できるよう支援する。判断対象は「本人に代わって全仕事を行う」。厚生労働省はジョブコーチ支援を、具体的目標と支援計画に基づく職場適応支援としている。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q116

就労・教育・社会参加 > ジョブコーチ・合理的配慮 | 標準

ジョブコーチ支援が順調に進み、同僚も本人への指示方法を理解した。次の段階として適切なのはどれか。この論点で、選択肢「上司・同僚による自然な職場内支援へ徐々に移行する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 職場内で支援が継続できる体制を作る。
- イ. 本人の職場参加を不必要に分離しない。
- ウ. ジョブコーチ支援は職場のナチュラルサポートへ円滑に移行することを目指す。
- エ. 職場の支援者を増やす。

答え・4肢解説

正答：ウ

- ア：誤り。これは別の選択肢「ジョブコーチが永久に全ての指示を出す」に対応する説明で、判断対象「上司・同僚による自然な職場内支援へ徐々に移行する」の直接の根拠ではない。
- イ：誤り。これは別の選択肢「本人を一人だけ別室で働かせる」に対応する説明で、判断対象「上司・同僚による自然な職場内支援へ徐々に移行する」の直接の根拠ではない。
- ウ：正しい。これは判断対象「上司・同僚による自然な職場内支援へ徐々に移行する」が正答となる理由を直接説明している。
- エ：誤り。これは別の選択肢「同僚との関わりを減らす」に対応する説明で、判断対象「上司・同僚による自然な職場内支援へ徐々に移行する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。ジョブコーチ支援は職場のナチュラルサポートへ円滑に移行することを目指す。判断対象は「上司・同僚による自然な職場内支援へ徐々に移行する」。定着支援では専門職が支え続けるだけでなく、職場そのものが支援可能になることが重要である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q117

就労・教育・社会参加 > ジョブコーチ・合理的配慮 | 標準

聴覚障害のある労働者が口頭指示を聞き取りにくい。合理的配慮として最も適切なものはどれか。この論点で、選択肢「本人の意向を確認せず配慮を決める」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 職務上の支障と本人の意向を確認し、実行可能な方法を検討する。
- イ. 合理的配慮は本人との話し合いが重要である。
- ウ. 必要な配慮を検討する。
- エ. 不必要な排除となる可能性がある。

OT06 Q118

就労・教育・社会参加 > ジョブコーチ・合理的配慮 | 応用

片麻痺の事務職員が大量の紙ファイル運搬に困っているが、文書内容の確認業務は可能である。最も適切なものはどれか。この論点で、選択肢「電子化や台車利用など、職務目的を保ちながら方法を調整する」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 本人との対話が必要である。
- イ. 職務の本質を保ちながら障壁となる方法・環境を調整する。
- ウ. 合理的配慮の可能性を検討する。
- エ. 役割を過度に奪う可能性がある。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「本人と相談し、指示を文字でも提示する方法を検討する」に対応する説明で、判断対象「本人の意向を確認せず配慮を決める」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「本人の意向を確認せず配慮を決める」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「支障があっても何も変更しない」に対応する説明で、判断対象「本人の意向を確認せず配慮を決める」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「障害を理由に一律に担当業務から外す」に対応する説明で、判断対象「本人の意向を確認せず配慮を決める」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。合理的配慮は本人との話し合いが重要である。判断対象は「本人の意向を確認せず配慮を決める」。雇用分野では事業主に、過重な負担とならない範囲で障害者への合理的配慮提供が義務付けられている。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「本人の能力を確認せず配置転換する」に対応する説明で、判断対象「電子化や台車利用など、職務目的を保ちながら方法を調整する」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「電子化や台車利用など、職務目的を保ちながら方法を調整する」が正答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「退職を勧める」に対応する説明で、判断対象「電子化や台車利用など、職務目的を保ちながら方法を調整する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「本人の担当業務を全て同僚へ移す」に対応する説明で、判断対象「電子化や台車利用など、職務目的を保ちながら方法を調整する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。職務の本質を保ちながら障壁となる方法・環境を調整する。判断対象は「電子化や台車利用など、職務目的を保ちながら方法を調整する」。合理的配慮では本人の障害特性と職務上の支障を具体化し、職場と実現可能な調整を検討する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q119

就労・教育・社会参加 > ジョブコーチ・合理的配慮 | 応用

発達障害のある社員が業務変更のたびに混乱し、上司も指導方法に困っている。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「上司だけを指導し本人の希望は聞かない」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 職場適応は本人側と環境側の双方を調整する。
- イ. 職場環境が障壁となっている可能性がある。
- ウ. 本人との協働も必要である。
- エ. 調整可能な支援を先に検討する。

OT06 Q120

就労・教育・社会参加 > 就園・就学・学校支援 | 標準

学童が家庭では字を書けるが、授業中の板書だけ著しく遅い。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「板書量、視線移動、座席、書字速度、授業時間など実際の学校条件を評価する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 学校は主要な作業場面である。
- イ. 板書は視覚探索、記憶、書字速度、姿勢、時間制限など複数要求を含む。
- ウ. 環境と課題要求が異なる。
- エ. 握力だけでは原因を説明できない。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「本人には変更確認手順を、上司には予告や指示の具体化を提案し双方を支援する」に対応する説明で、判断対象「上司だけを指導し本人の希望は聞かない」の直接の根拠ではない。
イ：誤り。これは別の選択肢「本人だけを訓練し職場には何も働きかけない」に対応する説明で、判断対象「上司だけを指導し本人の希望は聞かない」の直接の根拠ではない。
ウ：正しい。これは判断対象「上司だけを指導し本人の希望は聞かない」が誤答となる理由を直接説明している。
エ：誤り。これは別の選択肢「退職を最初の選択肢とする」に対応する説明で、判断対象「上司だけを指導し本人の希望は聞かない」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。本人との協働も必要である。判断対象は「上司だけを指導し本人の希望は聞かない」。ジョブコーチや作業療法士の就労支援では、本人と職場双方の課題を理解して調整する視点が重要である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「学校環境を評価しない」に対応する説明で、判断対象「板書量、視線移動、座席、書字速度、授業時間など実際の学校条件を評価する」の直接の根拠ではない。
イ：正しい。これは判断対象「板書量、視線移動、座席、書字速度、授業時間など実際の学校条件を評価する」が正答となる理由を直接説明している。
ウ：誤り。これは別の選択肢「家庭で書けるので問題なしとする」に対応する説明で、判断対象「板書量、視線移動、座席、書字速度、授業時間など実際の学校条件を評価する」の直接の根拠ではない。
エ：誤り。これは別の選択肢「握力だけを測る」に対応する説明で、判断対象「板書量、視線移動、座席、書字速度、授業時間など実際の学校条件を評価する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。板書は視覚探索、記憶、書字速度、姿勢、時間制限など複数要求を含む。判断対象は「板書量、視線移動、座席、書字速度、授業時間など実際の学校条件を評価する」。学校支援では検査室の能力を、実際の授業課題と環境へ結び付けて評価する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q121

就労・教育・社会参加 > 就園・就学・学校支援 | 標準

発達障害児の授業参加支援として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「学校には診断名だけ伝える」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 日常的に関わる大人と目標・方法を共有すると支援が一貫しやすい。
- イ. 児が混乱する場合がある。
- ウ. 具体的な機能・環境情報が必要である。
- エ. 学校生活は教員との協働が不可欠である。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「保護者・教員と困難な場面と強みを共有し、具体的な支援方法を検討する」に対応する説明で、判断対象「学校には診断名だけ伝える」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「家庭と学校で全く異なる対応を続ける」に対応する説明で、判断対象「学校には診断名だけ伝える」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「学校には診断名だけ伝える」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「作業療法士だけで支援方法を決める」に対応する説明で、判断対象「学校には診断名だけ伝える」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。具体的な機能・環境情報が必要である。判断対象は「学校には診断名だけ伝える」。就学支援では児の参加目標を中心に、家庭・学校・療育の支援をつなぐ。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q122

就労・教育・社会参加 > 就園・就学・学校支援 | 標準

書字障害のある児が内容理解は良好だが長文記述で評価が下がる。最も適切な配慮はどれか。この論点で、選択肢「学習目標を保ちながら、必要に応じてタブレット入力や解答時間延長を検討する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 障害によるアクセス障壁を調整し学習目標へ参加できるようにする。
- イ. 代替的な表出方法も検討する。
- ウ. 個別の困難と希望を確認する。
- エ. 必要以上に教育機会を失わせる。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「学習目標を保ちながら、必要に応じてタブレット入力や解答時間延長を検討する」が正答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「書字量を増やすことだけを行う」に対応する説明で、判断対象「学習目標を保ちながら、必要に応じてタブレット入力や解答時間延長を検討する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「本人の困難を確認しない」に対応する説明で、判断対象「学習目標を保ちながら、必要に応じてタブレット入力や解答時間延長を検討する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「全教科の評価を免除する」に対応する説明で、判断対象「学習目標を保ちながら、必要に応じてタブレット入力や解答時間延長を検討する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。障害によるアクセス障壁を調整し学習目標へ参加できるようにする。判断対象は「学習目標を保ちながら、必要に応じてタブレット入力や解答時間延長を検討する」。文部科学省所管分野でも障害者への合理的配慮提供が重要とされており、教育場面では個別の支障に応じて調整する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q123

就労・教育・社会参加 > 就園・就学・学校支援 | 応用

保育園から小学校へ進学する児に、集団指示の聞き逃しと感覚過敏がある。移行支援として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「診断名だけを学校へ伝える」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 診断名だけでは具体的支援が分からない。
- イ. 移行前に支援の有効条件を共有すると新環境への適応を助ける。
- ウ. 予防的な環境調整が可能である。
- エ. 有効な支援は必要に応じ継続する。

OT06 Q124

就労・教育・社会参加 > 対人技能・社会参加 | 基礎

『もっと人と関わりたい』という希望を作業療法目標へ具体化する例として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「週1回、地域の将棋サークルに参加し一局対戦する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 人格特性を目標にしない。
- イ. 具体的な場面・頻度・行動として評価可能である。
- ウ. 本人だけでは制御できない。
- エ. 感情の完全消失ではなく参加を目標にする。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「診断名だけを学校へ伝える」が誤答となる理由を直接説明している。
イ：誤り。これは別の選択肢「有効だった視覚支援や刺激調整方法を学校へ具体的に共有し、入学後の環境を事前検討する」に対応する説明で、判断対象「診断名だけを学校へ伝える」の直接の根拠ではない。
ウ：誤り。これは別の選択肢「入学後に問題が起きるまで何もしない」に対応する説明で、判断対象「診断名だけを学校へ伝える」の直接の根拠ではない。
エ：誤り。これは別の選択肢「保育園での支援方法を全て終了する」に対応する説明で、判断対象「診断名だけを学校へ伝える」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。診断名だけでは具体的支援が分からない。判断対象は「診断名だけを学校へ伝える」。ライフステージ移行では『何ができるか』だけでなく『どの条件なら参加しやすいか』を次の支援者へ伝える。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「社交的な性格になる」に対応する説明で、判断対象「週1回、地域の将棋サークルに参加し一局対戦する」の直接の根拠ではない。
イ：正しい。これは判断対象「週1回、地域の将棋サークルに参加し一局対戦する」が正答となる理由を直接説明している。
ウ：誤り。これは別の選択肢「全員と友達になる」に対応する説明で、判断対象「週1回、地域の将棋サークルに参加し一局対戦する」の直接の根拠ではない。
エ：誤り。これは別の選択肢「緊張を完全になくす」に対応する説明で、判断対象「週1回、地域の将棋サークルに参加し一局対戦する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。具体的な場面・頻度・行動として評価可能である。判断対象は「週1回、地域の将棋サークルに参加し一局対戦する」。社会参加目標は本人が望む役割・場面へ落とし込み、実行可能な行動で設定する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q125

就労・教育・社会参加 > 対人技能・社会参加 | 標準

SSTでは店員への質問ができるが、実際の店では話しかけられない。最も適切なのはどれか。
この論点で、選択肢「不安を無視して一人で行かせる」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 訓練室内成績と社会参加は同一ではない。
- イ. 実生活で使えることが目的である。
- ウ. 技能を実際の環境へ段階的に汎化する。
- エ. 難易度を段階づける。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「訓練室でできるので治療終了とする」に対応する説明で、判断対象「不安を無視して一人で行かせる」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「実生活場面を避ける」に対応する説明で、判断対象「不安を無視して一人で行かせる」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「支援者同行で実店舗練習を行い、徐々に手掛かりを減らす」に対応する説明で、判断対象「不安を無視して一人で行かせる」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「不安を無視して一人で行かせる」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。難易度を段階づける。判断対象は「不安を無視して一人で行かせる」。対人技能訓練は練習場面での成功を、本人が必要とする地域・就労場面へつなげる必要がある。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q126

就労・教育・社会参加 > 対人技能・社会参加 | 応用

車椅子利用者が趣味の講座へ参加したいが、会場入口に階段があり入れない。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「本人の能力不足とせず、会場変更やアクセス方法など環境側の調整を検討する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 参加制約は物理的環境の障壁でも生じる。
- イ. 環境への働きかけも作業療法に含まれる。
- ウ. 身体機能だけでは階段という障壁を解決できない場合がある。
- エ. 環境調整で参加可能性を検討する。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「本人の能力不足とせず、会場変更やアクセス方法など環境側の調整を検討する」が正答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「環境は作業療法の対象外とする」に対応する説明で、判断対象「本人の能力不足とせず、会場変更やアクセス方法など環境側の調整を検討する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「筋力訓練だけを行う」に対応する説明で、判断対象「本人の能力不足とせず、会場変更やアクセス方法など環境側の調整を検討する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「参加を諦めるよう勧める」に対応する説明で、判断対象「本人の能力不足とせず、会場変更やアクセス方法など環境側の調整を検討する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。参加制約は物理的環境の障壁でも生じる。判断対象は「本人の能力不足とせず、会場変更やアクセス方法など環境側の調整を検討する」。社会参加支援では本人の機能と地域・制度・物理環境との相互作用を評価する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q127

臨床実践・総合症例 > 診療録・検査・情報収集 | 基礎

初回作業療法前に診療録から優先して確認すべき内容として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「身長だけ」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 安全な評価・介入計画には医学的状态と制限事項の確認が必要である。
- イ. 身長だけでは介入可否を判断できない。
- ウ. 病室番号は臨床状態を示さない。
- エ. 趣味は重要だが安全情報の確認も不可欠である。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「診断・病期、安静度、禁忌、バイタル推移、服薬、検査結果」に対応する説明で、判断対象「身長だけ」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「身長だけ」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「病室番号だけ」に対応する説明で、判断対象「身長だけ」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「趣味だけ」に対応する説明で、判断対象「身長だけ」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。身長だけでは介入可否を判断できない。判断対象は「身長だけ」。情報収集では医学的リスクと生活背景の双方を確認し、何を安全に評価できるか決める。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q128

臨床実践・総合症例 > 診療録・検査・情報収集 | 標準

検査値に軽度異常があるが、患者は無症状で医師から活動許可が出ている。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「検査値の意味と推移、症状、医師指示を合わせて活動内容を判断する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 安全管理上重要な情報である。
- イ. 医学的安全性も必要である。
- ウ. 検査値は臨床症状・経過・指示と統合して解釈する。
- エ. 異常の程度と病態によって対応は異なる。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「検査値を無視する」に対応する説明で、判断対象「検査値の意味と推移、症状、医師指示を合わせて活動内容を判断する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「本人の希望だけで負荷を決める」に対応する説明で、判断対象「検査値の意味と推移、症状、医師指示を合わせて活動内容を判断する」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「検査値の意味と推移、症状、医師指示を合わせて活動内容を判断する」が正答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「異常値が一つあれば全活動を中止する」に対応する説明で、判断対象「検査値の意味と推移、症状、医師指示を合わせて活動内容を判断する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。検査値は臨床症状・経過・指示と統合して解釈する。判断対象は「検査値の意味と推移、症状、医師指示を合わせて活動内容を判断する」。臨床では単一の数字で判断せず、患者の全身状態と経時変化を含めて意味づけする。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q129

臨床実践・総合症例 > 診療録・検査・情報収集 | 標準

MRIでは小さな病変だが、患者は調理手順を大きく間違える。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「調理失敗を性格の問題とする」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 高次脳機能障害の可能性を検討する。
- イ. 臨床所見と作業遂行を統合する。
- ウ. 実生活上の障害を直接評価する必要がある。
- エ. 画像所見と生活障害は必ずしも一対一で対応しない。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「調理失敗を性格の問題とする」が誤答となる理由を直接説明している。
イ：誤り。これは別の選択肢「画像だけで介入内容を決める」に対応する説明で、判断対象「調理失敗を性格の問題とする」の直接の根拠ではない。
ウ：誤り。これは別の選択肢「病変が小さいので問題なしとする」に対応する説明で、判断対象「調理失敗を性格の問題とする」の直接の根拠ではない。
エ：誤り。これは別の選択肢「画像の大きさだけで軽症とせず、遂行機能と実際の調理遂行を評価する」に対応する説明で、判断対象「調理失敗を性格の問題とする」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。高次脳機能障害の可能性を検討する。判断対象は「調理失敗を性格の問題とする」。作業療法士は医学的所見を理解したうえで、生活機能へどのように表れているかを評価する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q130

臨床実践・総合症例 > 診療録・検査・情報収集 | 標準

本人は『薬は毎日飲んでいる』と話す。家族は飲み残しを頻繁に見つけている。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「双方の情報を尊重し、実際の服薬管理手順と認知機能を評価する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 不一致を臨床仮説へ活用する。
- イ. 情報の不一致は自己認識や記憶、環境条件を評価する手掛かりとなる。
- ウ. 直接的な遂行評価が必要である。
- エ. 他の情報源も確認する。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「食い違いがあるので評価を中止する」に対応する説明で、判断対象「双方の情報を尊重し、実際の服薬管理手順と認知機能を評価する」の直接の根拠ではない。
イ：正しい。これは判断対象「双方の情報を尊重し、実際の服薬管理手順と認知機能を評価する」が正答となる理由を直接説明している。
ウ：誤り。これは別の選択肢「家族の話だけで能力を断定する」に対応する説明で、判断対象「双方の情報を尊重し、実際の服薬管理手順と認知機能を評価する」の直接の根拠ではない。
エ：誤り。これは別の選択肢「本人の話だけを採用する」に対応する説明で、判断対象「双方の情報を尊重し、実際の服薬管理手順と認知機能を評価する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。情報の不一致は自己認識や記憶、環境条件を評価する手掛かりとなる。判断対象は「双方の情報を尊重し、実際の服薬管理手順と認知機能を評価する」。臨床情報は誰か一人を正しいと決めず、観察・検査・実生活遂行を突き合わせて統合する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q131

臨床実践・総合症例 > 診療録・検査・情報収集 | 応用

新しい降圧薬開始後から、朝の立ち上がりでめまいが増えている。最も適切なのはどれか。
この論点で、選択肢「薬剤情報を確認しない」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 転倒リスクを高める。
- イ. 薬剤変更が起立性症状へ影響している可能性を評価する。
- ウ. 循環反応を確認する必要がある。
- エ. 薬剤は活動耐容能へ影響し得る。

OT06 Q132

臨床実践・総合症例 > リスク管理・急変・感染対策 | 標準

作業療法中、突然片側の口角下垂と上肢脱力が出現した。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「直ちに活動を中止し、発症時刻と症状を確認して緊急に医療スタッフへ報告する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 時間依存性の高い病態を見逃す可能性がある。
- イ. 急な局所神経症状は脳血管障害等を疑い迅速な医療評価が必要である。
- ウ. 活動継続より安全確保を優先する。
- エ. 緊急対応が必要である。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「めまいがあっても急速に立たせる」に対応する説明で、判断対象「薬剤情報を確認しない」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「服薬変更と体位変換時の血圧・症状の関係を確認し医療チームへ共有する」に対応する説明で、判断対象「薬剤情報を確認しない」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「筋力低下だけと判断する」に対応する説明で、判断対象「薬剤情報を確認しない」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「薬剤情報を確認しない」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。薬剤は活動耐容能へ影響し得る。判断対象は「薬剤情報を確認しない」。診療録上の薬剤変更は、眠気、血圧、筋緊張、疲労など作業遂行変化の原因となり得る。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「疲労として休憩だけで様子を見る」に対応する説明で、判断対象「直ちに活動を中止し、発症時刻と症状を確認して緊急に医療スタッフへ報告する」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「直ちに活動を中止し、発症時刻と症状を確認して緊急に医療スタッフへ報告する」が正答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「麻痺側訓練を続ける」に対応する説明で、判断対象「直ちに活動を中止し、発症時刻と症状を確認して緊急に医療スタッフへ報告する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「翌日の診察まで待つ」に対応する説明で、判断対象「直ちに活動を中止し、発症時刻と症状を確認して緊急に医療スタッフへ報告する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。急な局所神経症状は脳血管障害等を疑い迅速な医療評価が必要である。判断対象は「直ちに活動を中止し、発症時刻と症状を確認して緊急に医療スタッフへ報告する」。急変時は『何が起きたか』『いつからか』を簡潔に把握し、治療より報告・救急対応を優先する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q133

臨床実践・総合症例 > リスク管理・急変・感染対策 | 標準

歩行練習中に新たな胸部圧迫感、冷汗、呼吸困難が出現した。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「予定時間まで続ける」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 心肺系の重大な急変を疑い安全確保を優先する。
- イ. 治療予定より患者安全を優先する。
- ウ. 症状を悪化させる可能性がある。
- エ. 身体的緊急事態を除外していない。

OT06 Q134

臨床実践・総合症例 > リスク管理・急変・感染対策 | 基礎

標準予防策について正しいのはどれか。この論点で、選択肢「感染症の診断の有無にかかわらず全ての患者に基本的に適用する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 手指衛生は基本要素である。
- イ. 患者間で交換し、適切に手指衛生を行う。
- ウ. 未診断感染も考慮する。
- エ. 標準予防策は全患者を対象とする感染対策の基本である。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「運動を中止し安静を保ち、バイタルを確認して速やかに医療スタッフへ連絡する」に対応する説明で、判断対象「予定時間まで続ける」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「予定時間まで続ける」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「歩行速度を上げる」に対応する説明で、判断対象「予定時間まで続ける」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「心理的なものと決めつける」に対応する説明で、判断対象「予定時間まで続ける」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。治療予定より患者安全を優先する。判断対象は「予定時間まで続ける」。新規胸痛・呼吸困難・意識変化などは活動継続の可否を即座に再判断する徴候である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「手指衛生を含まない」に対応する説明で、判断対象「感染症の診断の有無にかかわらず全ての患者に基本的に適用する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「手袋をすれば患者間で交換不要である」に対応する説明で、判断対象「感染症の診断の有無にかかわらず全ての患者に基本的に適用する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「感染症確定患者だけに行う」に対応する説明で、判断対象「感染症の診断の有無にかかわらず全ての患者に基本的に適用する」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「感染症の診断の有無にかかわらず全ての患者に基本的に適用する」が正答となる理由を直接説明している。

要点

正しい。標準予防策は全患者を対象とする感染対策の基本である。判断対象は「感染症の診断の有無にかかわらず全ての患者に基本的に適用する」。厚生労働省は標準予防策を全患者への基本策とし、必要に応じ空気・飛沫・接触予防策を追加するとしている。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q135

臨床実践・総合症例 > リスク管理・急変・感染対策 | 応用

複数患者が使用する訓練用具に患者の唾液が付着した。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「目に見える汚れだけ拭き広げる」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 用具処理後も手指衛生を行う。
- イ. 乾燥だけで安全とはいえない。
- ウ. 体液汚染がある場合は交差感染を防ぐ適切な処理が必要である。
- エ. 汚染を拡大させる可能性がある。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「手指衛生を行わない」に対応する説明で、判断対象「目に見える汚れだけ拭き広げる」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「乾けばそのまま次の患者へ使用する」に対応する説明で、判断対象「目に見える汚れだけ拭き広げる」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「汚染物を他患者へ使用せず、材質と施設手順に従い清掃・消毒する」に対応する説明で、判断対象「目に見える汚れだけ拭き広げる」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「目に見える汚れだけ拭き広げる」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。汚染を拡大させる可能性がある。判断対象は「目に見える汚れだけ拭き広げる」。作業療法では共用物品が多いため、標準予防策と施設の洗浄・消毒手順を実際の訓練環境へ適用する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q136

臨床実践・総合症例 > 目標設定・プログラム修正 | 基礎

長期目標が『自宅で一人で朝食を準備する』である。短期目標として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「1週間以内に見守り下でトーストと飲み物を準備する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 生活目標とのつながりと基準が不明確である。
- イ. 観察可能な行動目標ではない。
- ウ. 達成基準が不明確である。
- エ. 期限、条件、対象作業が具体的で評価しやすい。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「筋力をできるだけ上げる」に対応する説明で、判断対象「1週間以内に見守り下でトーストと飲み物を準備する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「頑張って自立する」に対応する説明で、判断対象「1週間以内に見守り下でトーストと飲み物を準備する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「ADLを改善する」に対応する説明で、判断対象「1週間以内に見守り下でトーストと飲み物を準備する」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「1週間以内に見守り下でトーストと飲み物を準備する」が正答となる理由を直接説明している。

要点

正しい。期限、条件、対象作業が具体的で評価しやすい。判断対象は「1週間以内に見守り下でトーストと飲み物を準備する」。短期目標は長期の生活目標を構成する具体的な作業へ分解して設定する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q137

臨床実践・総合症例 > 目標設定・プログラム修正 | 標準

握力は改善したが、瓶のふた開けは全く改善していない。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「瓶開けを再評価しない」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 機能改善が目標作業へ結び付かない理由を再分析する。
- イ. 目標ではなく介入仮説を見直す。
- ウ. 実際の作業遂行を確認する必要がある。
- エ. 握力が主因でない可能性がある。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「手関節痛、把持方法、ふたの摩擦など他要因を再評価し介入を修正する」に対応する説明で、判断対象「瓶開けを再評価しない」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「生活目標を削除する」に対応する説明で、判断対象「瓶開けを再評価しない」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「瓶開けを再評価しない」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「握力だけをさらに訓練する」に対応する説明で、判断対象「瓶開けを再評価しない」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。実際の作業遂行を確認する必要がある。判断対象は「瓶開けを再評価しない」。プログラム修正では『何が改善したか』と『何がまだ作業を妨げているか』を分けて考える。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q138

臨床実践・総合症例 > 目標設定・プログラム修正 | 標準

治療開始時は更衣自立を希望していたが、退院が近づき本人が『まず一人でトイレへ行きたい』と話した。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「本人と安全性・緊急性を再検討し、必要なら目標の優先順位を変更する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 目標は生活状況や本人の価値の変化に応じて見直す。
- イ. 共同意思決定を行う。
- ウ. 固定的な計画では本人中心性を失う。
- エ. 本人の優先事項は重要である。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「本人と安全性・緊急性を再検討し、必要なら目標の優先順位を変更する」が正答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「治療者だけで新目標を決める」に対応する説明で、判断対象「本人と安全性・緊急性を再検討し、必要なら目標の優先順位を変更する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「最初に決めた目標は変更しない」に対応する説明で、判断対象「本人と安全性・緊急性を再検討し、必要なら目標の優先順位を変更する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「本人の希望を無視する」に対応する説明で、判断対象「本人と安全性・緊急性を再検討し、必要なら目標の優先順位を変更する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。目標は生活状況や本人の価値の変化に応じて見直す。判断対象は「本人と安全性・緊急性を再検討し、必要なら目標の優先順位を変更する」。目標設定は一回限りではなく、病期・環境・本人の優先事項に応じて更新する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q139

臨床実践・総合症例 > 目標設定・プログラム修正 | 標準

調理練習で毎回複数工程を忘れ失敗が続いている。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「さらに複雑な料理へ進む」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 課題設計を見直す必要がある。
- イ. 現段階では難易度が高すぎる。
- ウ. 残存能力を生かす余地がある。
- エ. 認知要求を下げて成功を作り、段階的に負荷を上げる。

OT06 Q140

臨床実践・総合症例 > 目標設定・プログラム修正 | 基礎

治療活動後に強い疼痛増悪が毎回翌日まで続き、生活活動も減っている。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「治療負荷が過大な可能性を考え、強度・方法・目的を再評価する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 反応に応じて治療を変更する。
- イ. 持続的増悪は過負荷の可能性がある。
- ウ. 生活機能への影響は重要なアウトカムである。
- エ. 介入利益より負担が大きい場合はプログラム修正が必要である。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「失敗を繰り返せば自然に改善すると考える」に対応する説明で、判断対象「さらに複雑な料理へ進む」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「さらに複雑な料理へ進む」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「全介助に固定する」に対応する説明で、判断対象「さらに複雑な料理へ進む」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「工程数を減らし手順表を用いて成功可能な課題へ調整する」に対応する説明で、判断対象「さらに複雑な料理へ進む」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。現段階では難易度が高すぎる。判断対象は「さらに複雑な料理へ進む」。課題難易度は工程数、時間、道具、手掛かり、環境刺激などを操作して調整できる。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「同じプログラムを必ず継続する」に対応する説明で、判断対象「治療負荷が過大な可能性を考え、強度・方法・目的を再評価する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「効果が高い証拠としてさらに負荷を上げる」に対応する説明で、判断対象「治療負荷が過大な可能性を考え、強度・方法・目的を再評価する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「生活への悪影響を無視する」に対応する説明で、判断対象「治療負荷が過大な可能性を考え、強度・方法・目的を再評価する」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「治療負荷が過大な可能性を考え、強度・方法・目的を再評価する」が正答となる理由を直接説明している。

要点

正しい。介入利益より負担が大きい場合はプログラム修正が必要である。判断対象は「治療負荷が過大な可能性を考え、強度・方法・目的を再評価する」。治療効果は訓練中の成績だけでなく、その後の症状と生活参加への影響まで含めて判断する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q141

臨床実践・総合症例 > 多職種連携・記録・報告 | 標準

退院前カンファレンスで作業療法士が最も共有すべき内容はどれか。この論点で、選択肢「MMTの数値だけ」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 参加回数は退院後支援を直接示さない。
- イ. 退院支援に必要なのは生活場面での具体的能力と支援条件である。
- ウ. 身体機能は一部の情報にすぎない。
- エ. 訓練名だけでは生活状況が伝わらない。

答え・4肢解説

正答：ウ

- ア：誤り。これは別の選択肢「作業療法室の出席回数だけ」に対応する説明で、判断対象「MMTの数値だけ」の直接の根拠ではない。
- イ：誤り。これは別の選択肢「本人が現在できる生活動作、必要な介助、リスク、環境調整、退院後目標」に対応する説明で、判断対象「MMTの数値だけ」の直接の根拠ではない。
- ウ：正しい。これは判断対象「MMTの数値だけ」が誤答となる理由を直接説明している。
- エ：誤り。これは別の選択肢「実施した訓練名だけ」に対応する説明で、判断対象「MMTの数値だけ」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。身体機能は一部の情報にすぎない。判断対象は「MMTの数値だけ」。多職種連携では専門職内の言葉、チームが行動できる具体的な生活情報へ変換する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q142

臨床実践・総合症例 > 多職種連携・記録・報告 | 基礎

SOAP記録で『更衣中、左袖を3回見落とした』を記載する項目として最も適切なものはどれか。この論点で、選択肢「観察された客観的事実としてOに記載する」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. Pには今後の評価・介入計画を書く。
- イ. 実際に観察した「左袖を3回見落とした」という事実はOに記載する。
- ウ. Aには客観情報をもとにした臨床的解釈を書く。
- エ. Sは本人が述べた症状や希望など主観的情報を記載する。

答え・4肢解説

正答：イ

- ア：誤り。これは別の選択肢「今後の方針としてPに記載する」に対応する説明で、判断対象「観察された客観的事実としてOに記載する」の直接の根拠ではない。
- イ：正しい。これは判断対象「観察された客観的事実としてOに記載する」が正答となる理由を直接説明している。
- ウ：誤り。これは別の選択肢「臨床的解釈としてAに記載する」に対応する説明で、判断対象「観察された客観的事実としてOに記載する」の直接の根拠ではない。
- エ：誤り。これは別の選択肢「本人の主観的訴えとしてSに記載する」に対応する説明で、判断対象「観察された客観的事実としてOに記載する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。実際に観察した「左袖を3回見落とした」という事実はOに記載する。判断対象は「観察された客観的事実としてOに記載する」。良い記録では観察事実と臨床的解釈を分けることで、他者が推論過程を追いやすくする。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q143

臨床実践・総合症例 > 多職種連携・記録・報告 | 基礎

作業療法中に患者が急に意識低下した。医師へ報告する内容として最も優先度が高いのはどれか。この論点で、選択肢「作業療法士の勤務予定」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 臨床判断に不要である。
- イ. 急変対応の優先情報ではない。
- ウ. 急変の時間、状況、症状、バイタル等は緊急判断に必要である。
- エ. 現在の緊急状態と関連が低い。

OT06 Q144

臨床実践・総合症例 > 多職種連携・記録・報告 | 基礎

診療録の記載として最も適切なものはどれか。この論点で、選択肢「『5分間の立位課題中、開始3分で膝折れ1回。最小介助で回復』」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 主観的で再現性が低い。
- イ. 具体的な遂行情報がない。
- ウ. 根拠のない人格評価である。
- エ. 時間、行動、回数、介助量が具体的に他者が状況を理解できる。

答え・4肢解説

正答：ア

- ア：正しい。これは判断対象「作業療法士の勤務予定」が誤答となる理由を直接説明している。
- イ：誤り。これは別の選択肢「患者の趣味の詳細」に対応する説明で、判断対象「作業療法士の勤務予定」の直接の根拠ではない。
- ウ：誤り。これは別の選択肢「いつ、何をしている時に、どのような意識・バイタル変化が起きたか」に対応する説明で、判断対象「作業療法士の勤務予定」の直接の根拠ではない。
- エ：誤り。これは別の選択肢「昨日の訓練作品の出来」に対応する説明で、判断対象「作業療法士の勤務予定」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。臨床判断に不要である。判断対象は「作業療法士の勤務予定」。急変報告では重要情報を短時間で伝え、相手が次の医療行動を決められるようにする。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：エ

- ア：誤り。これは別の選択肢「『なんとなく危なかった』」に対応する説明で、判断対象「『5分間の立位課題中、開始3分で膝折れ1回。最小介助で回復』」の直接の根拠ではない。
- イ：誤り。これは別の選択肢「『いつも通り頑張った』」に対応する説明で、判断対象「『5分間の立位課題中、開始3分で膝折れ1回。最小介助で回復』」の直接の根拠ではない。
- ウ：誤り。これは別の選択肢「『性格的に転びやすい』」に対応する説明で、判断対象「『5分間の立位課題中、開始3分で膝折れ1回。最小介助で回復』」の直接の根拠ではない。
- エ：正しい。これは判断対象「『5分間の立位課題中、開始3分で膝折れ1回。最小介助で回復』」が正答となる理由を直接説明している。

要点

正しい。時間、行動、回数、介助量が具体的に他者が状況を理解できる。判断対象は「『5分間の立位課題中、開始3分で膝折れ1回。最小介助で回復』」。臨床記録は事実を具体的に書き、必要に応じてその意味をAで解釈する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q145

臨床実践・総合症例 > 評価→問題点→介入を選ぶ総合症例 | 基礎

右半球脳卒中後、左片麻痺は軽度だが食事で左側を残し、車椅子左側を壁にぶつける。最も適切な介入はどれか。この論点で、選択肢「左上肢筋力訓練だけを行う」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 無視側を探索する機会が減る。
- イ. 主要問題は半側空間無視による実生活上の探索不足である。
- ウ. 実生活で左空間へ注意を向ける練習が必要である。
- エ. 軽度麻痺だけでは食事・衝突を十分説明できない。

OT06 Q146

臨床実践・総合症例 > 評価→問題点→介入を選ぶ総合症例 | 基礎

心不全患者が入浴後に強い息切れと疲労を生じるが、洗面や更衣は軽症状で行える。最も適切な介入はどれか。この論点で、選択肢「入浴工程と姿勢・温度・時間を分析し、休息やシャワーチェア等で負荷を下げる」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 負荷の高い具体的作業を特定して省エネルギーを適用する。
- イ. 心不全症状を悪化させる可能性がある。
- ウ. 低負荷ADLまで不必要に制限する。
- エ. 自立可能な活動を維持する。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「右側だけに物品を置く」に対応する説明で、判断対象「左上肢筋力訓練だけを行う」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「左側探索を促す視覚的手掛かりを食事・移動場面へ組み込み、安全な環境で反復する」に対応する説明で、判断対象「左上肢筋力訓練だけを行う」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「左側の活動を全て避ける」に対応する説明で、判断対象「左上肢筋力訓練だけを行う」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「左上肢筋力訓練だけを行う」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。軽度麻痺だけでは食事・衝突を十分説明できない。判断対象は「左上肢筋力訓練だけを行う」。総合症例では障害の重症度より、どの所見が生活問題を最も説明するかを見極めて介入を選ぶ。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「入浴工程と姿勢・温度・時間を分析し、休息やシャワーチェア等で負荷を下げる」が正答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「症状を無視して入浴時間を延ばす」に対応する説明で、判断対象「入浴工程と姿勢・温度・時間を分析し、休息やシャワーチェア等で負荷を下げる」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「全ADLを禁止する」に対応する説明で、判断対象「入浴工程と姿勢・温度・時間を分析し、休息やシャワーチェア等で負荷を下げる」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「更衣も全介助にする」に対応する説明で、判断対象「入浴工程と姿勢・温度・時間を分析し、休息やシャワーチェア等で負荷を下げる」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。負荷の高い具体的作業を特定して省エネルギーを適用する。判断対象は「入浴工程と姿勢・温度・時間を分析し、休息やシャワーチェア等で負荷を下げる」。内部障害では『活動できるか』だけでなく、どの工程で生理負荷が上がるかを分析する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q147

臨床実践・総合症例 > 評価→問題点→介入を選ぶ総合症例 | 標準

軽度認知症で基本ADLは自立しているが、薬の飲み忘れと重複服薬がある。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「筋力訓練だけを行う」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 本人の能力を生かし必要な支援量を決める。
- イ. 服薬管理は重要なIADLである。
- ウ. 筋力では記憶障害を補えない。
- エ. IADL障害に対して外的記憶補助と環境調整を組み合わせる。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「服薬を本人から完全に隠す」に対応する説明で、判断対象「筋力訓練だけを行う」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「基本ADL自立なので介入不要とする」に対応する説明で、判断対象「筋力訓練だけを行う」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「筋力訓練だけを行う」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「服薬カレンダーや一包化、アラーム、家族確認などを本人能力に合わせて検討する」に対応する説明で、判断対象「筋力訓練だけを行う」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。筋力では記憶障害を補えない。判断対象は「筋力訓練だけを行う」。認知症初期では基本ADLが保たれていても、服薬・金銭・交通など複雑なIADLへ問題が出ることがある。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q148

臨床実践・総合症例 > 評価→問題点→介入を選ぶ総合症例 | 標準

屈筋腱修復後の患者が『早く料理したい』と希望するが、まだ強い把持は禁止されている。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「修復時期のprotocolsを守りながら、患手へ過負荷をかけない調理準備や片手方法を練習する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 治癒組織を保護しつつ生活目標へ代償的に近づける。
- イ. 再断裂の危険がある。
- ウ. 手外科では術式と時期が負荷設定に重要である。
- エ. 病期に応じて段階的再開を支援する。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「修復時期のprotocolsを守りながら、患手へ過負荷をかけない調理準備や片手方法を練習する」が正答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「希望を優先して重い鍋を持たせる」に対応する説明で、判断対象「修復時期のprotocolsを守りながら、患手へ過負荷をかけない調理準備や片手方法を練習する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「術式・時期を確認しない」に対応する説明で、判断対象「修復時期のprotocolsを守りながら、患手へ過負荷をかけない調理準備や片手方法を練習する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「料理目標を永久に中止する」に対応する説明で、判断対象「修復時期のprotocolsを守りながら、患手へ過負荷をかけない調理準備や片手方法を練習する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。治癒組織を保護しつつ生活目標へ代償的に近づける。判断対象は「修復時期のprotocolsを守りながら、患手へ過負荷をかけない調理準備や片手方法を練習する」。臨床実践では医学的禁忌を守りながら、本人の生活目標を可能な形へ変換する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT06 Q149

臨床実践・総合症例 > 評価→問題点→介入を選ぶ総合症例 | 標準

ADHD児は静かな個室では課題を終えられるが、教室では周囲の音や掲示物に気を取られ課題が進まない。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「掲示物をさらに増やす」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 障害特性と環境の相互作用を評価する。
- イ. 実際の学校環境での参加が目標である。
- ウ. 注意をそらす刺激が増える可能性がある。
- エ. 環境刺激と課題構造を調整して教室参加へつなげる。

OT06 Q150

臨床実践・総合症例 > 評価→問題点→介入を選ぶ総合症例 | 基礎

ALS患者は現在スマートフォンを指で操作できるが、手指筋力が徐々に低下している。本人は家族との連絡を最優先している。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「現在操作できるうちに音声・スイッチ・視線入力等の代替手段を評価し練習する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 導入が遅いと学習や機器適合が難しくなることがある。
- イ. 本人の意思伝達と社会参加を保障する。
- ウ. 機能低下への代償準備が必要である。
- エ. 進行を予測し、残存能力がある時期から代替アクセスを準備する。

答え・4肢解説

正答：ウ

- ア：誤り。これは別の選択肢「集中力の弱さだけを本人の努力不足とする」に対応する説明で、判断対象「掲示物をさらに増やす」の直接の根拠ではない。
- イ：誤り。これは別の選択肢「個室でできるので学校支援は不要とする」に対応する説明で、判断対象「掲示物をさらに増やす」の直接の根拠ではない。
- ウ：正しい。これは判断対象「掲示物をさらに増やす」が誤答となる理由を直接説明している。
- エ：誤り。これは別の選択肢「座席位置や視覚刺激を調整し、短い課題単位とチェック表を用いる」に対応する説明で、判断対象「掲示物をさらに増やす」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。注意をそらす刺激が増える可能性がある。判断対象は「掲示物をさらに増やす」。総合症例では検査室での能力より、実際の生活環境で何が遂行を妨げているかを特定する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：エ

- ア：誤り。これは別の選択肢「完全に操作不能になるまで何もしない」に対応する説明で、判断対象「現在操作できるうちに音声・スイッチ・視線入力等の代替手段を評価し練習する」の直接の根拠ではない。
- イ：誤り。これは別の選択肢「家族が代わりに連絡すればよいとする」に対応する説明で、判断対象「現在操作できるうちに音声・スイッチ・視線入力等の代替手段を評価し練習する」の直接の根拠ではない。
- ウ：誤り。これは別の選択肢「筋力訓練だけを行う」に対応する説明で、判断対象「現在操作できるうちに音声・スイッチ・視線入力等の代替手段を評価し練習する」の直接の根拠ではない。
- エ：正しい。これは判断対象「現在操作できるうちに音声・スイッチ・視線入力等の代替手段を評価し練習する」が正答となる理由を直接説明している。

要点

正しい。進行を予測し、残存能力がある時期から代替アクセスを準備する。判断対象は「現在操作できるうちに音声・スイッチ・視線入力等の代替手段を評価し練習する」。進行性疾患では現在の能力だけでなく将来の変化を見越した支援機器・環境整備を行う。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認